

## はじめに

本事業は、「日本財団平成 30 年度助成事業」において実施した、「権利擁護支援従事者研修の開催」の記録です。

私達の生活の中には、権利擁護支援ニーズがあちこちに広がっています。認知症高齢者、障害者への虐待・差別、生活困窮者など支援を必要とされる課題はあちこちに点在しています。また、成年後見利用促進法が成立し、国民全員に利用しやすくする必要が出てきました。厚生労働省に成年後見制度利用促進室なるものも設置されました。国を挙げて促進が叫ばれている中、全国にいる権利擁護支援者は、この多様性のある困難な課題に対応せざる得ない状況に置かれています。そこで、その支援者に対して、法律と、福祉の両方の視点を持った専門的な研修、また、多職種が実際に話し合うというワークショップ手法を用いた研修を行うことによって、各々の専門性を向上させる研修の実施を目指しました。

本事業の成果が地域の権利擁護支援の推進と権利擁護支援センターの拡大、またそこで従事する方の活動に具体的に役立つことになれば幸いです。

2019（平成31）年 3月

全国権利擁護支援ネットワーク事務局

## 《目 次》

<b>I. 研修概要 と アンケート</b> . . . . .			<b>1</b>
1.	9月17日	鹿児島県薩摩川内市 . . . . .	2
2.	9月27日	新潟県柏崎市 . . . . .	8
3.	11月 2日	北海道北見市 . . . . .	14
4.	11月23日	山口県萩市 . . . . .	20
5.	1月 8日	奈良県奈良市 . . . . .	25
6.	1月18日	静岡県浜松市 . . . . .	36
7.	2月27日	群馬県前橋市 . . . . .	43
8.	3月11日	岩手県二戸市 . . . . .	48
<b>II. 検討委員会</b> . . . . .			<b>55</b>
1.	委員会概要	. . . . .	56
2.	委員会報告	. . . . .	57
<b>(資料) 研修配布資料</b>			
1.	9月17日	鹿児島県薩摩川内市	
2.	9月27日	新潟県柏崎市	
3.	11月 2日	北海道北見市	
4.	11月23日	山口県萩市	
5.	1月 8日	奈良県奈良市	
6.	1月18日	静岡県浜松市	
7.	2月27日	群馬県前橋市	
8.	3月11日	岩手県二戸市	

# I、研修概要とアンケート

## 研修概要

1. 日 時 平成30年9月17日（月・祝） 10:00～16:00

2. 会 場 薩摩川内市総合福祉会館 大ホール

3. 参加者数 50人（市内34人、市外5人、県外11人）

### 4. プログラム

#### （1）講義「権利擁護支援の基本」

講師：佐藤 彰一さん

（全国権利擁護支援ネットワーク代表・國學院大學教授・弁護士）

#### （2）講義「意思決定支援とエンパワメント」

講師：佐藤 彰一さん

#### （3）グループワーク（権利擁護支援ケースの事例検討）

講師：今井 友乃さん

（NPO法人 知多地域成年後見センター事務局長・

全国権利擁護支援ネットワーク事務局長）

上田 晴男さん（NPO法人 PAS ネット理事長）

#### （4）各グループからの報告、事例解説とまとめ

上田 晴男さん

### 5. 報 告

本センターのスタッフは勿論、市内外の関係団体に声かけを実施し、参加を募った。ただ開催日が前日までが精神保健福祉士の全国大会があり、敬老の日近辺であり、地域等での行事開催がありと泣く泣く参加出来ないとの声を頂く中での開催となった。講師の方々は国の会議等に参加される方々であるが、事例を通して分かりやすく権利擁護とは何かを講義いただき、全体的なスキルアップに繋がったと思う。実際に権利擁護に従事している、鹿児島県内・九州県内で活躍している同じ同士でのグループワークは事例を通して、日頃の支援や、悩み・課題等を共有する場面ともなり、各グループにおいて活気がありそれぞれが刺激を受けていたように見受けられた。

どうしても「権利擁護」の支援は抽象的なものであり、どのように支援するのが正解である。といった方法はなく、そのケース、その場面によって勿論支援の方法は違ってくる。その為、対応する支援者の力量が問われたり、課題抽出におけるプロセスが難しく、日々悩んで支援している中で、この研修により1つの方向性を見出すことが出来たのではないかと推

測される。

また職員は勿論、全員には声をかけることができなかったが、市民後見人養成講座修了生も多数参加されていた。講座が終われば終了ではなく、それから何をするのか。何ができるのか。といった探究心が皆さんあることが伺えた。9月21日にもフォローアップ研修を実施するが、そういった市民の力を活用出来るように場を調整すること、一緒に取り組んでいけるような環境を整備することが、本会に求められているとニーズであると認識した。

日頃は県外でしか聞くことができない研修を、現地事務局として本センターが担うことにより、薩摩川内市のみならず、県内・近隣の県からの参加があり、権利擁護の裾野を広げることができて良かった。ただ今回の参加者を見ると、障害者関係の方が多く、高齢者分野の方が少なかったのが残念であった。

また今後、本センターも関係が出てくる成年後見制度の利用の促進に関する法律や、それに付随する成年後見制度利用促進基本計画の話が出たが、中身は成年後見制度の促進ではなく、権利擁護の促進との説明があった。解説にあったが、通常、確かに国が示す計画にも数値目標が設置されているが、この件についてはなく、数を増やすことが目的ではなく、権利擁護支援体制を作ることが目的との言葉が印象的であった。その真意を元に、市と協働しながら権利擁護の促進を図ることができるようしていきたい。

作成者 : 社会福祉法人 薩摩川内市社会福祉協議会 瀬戸口さん



権利擁護支援従事者研修（9月17日・薩摩川内市総合福祉会館）  
アンケート集計結果

回答数：36

1) (A) お住まいは

都道府県		市区町村			
鹿児島県	26名	薩摩川内市	21名	久留米市	5名
福岡県	9名	曾於市	2名	朝倉市	2名
大分県	1名	出水市	1名	大野城市	1名
		湧水町	1名	臼杵市	1名
		いちき串木野市	1名	無記入	1名

(B) 職種（所属） ※複数回答可

1、自治体	0名
2、社会福祉協議会	11名
3、福祉職（高齢）	3名
4、福祉職（障害）	6名
5、法律職	0名
6、AS-J会員団体	4名
7、その他	10名 (NPO法人3、機関相談支援センター2、元社協職員1、 市民後見人研修修了者1、在宅介護支援センター1)

※無記入 2名

2) 本研修は何でお知りになりましたか？ ※複数回答可

1、チラシ	4名
2、AS-Jホームページ	3名
3、関係機関	18名
4、友人・知人	8名
5、その他	3名（メール案内）

3) 「権利擁護支援の基本」について、ご意見・ご感想をお書きください。

1、大変良かった	21名
2、良かった	15名
3、よく分からなかった	0名

#### 1、「大変良かった」

- ・正義とケアの倫理について新しい学びをありがとうございました。(権利擁護支援は何度聞いても学びが深まります。)
- ・権利擁護に権利だけでなく利益の擁護が入っていることを知れてよかった。
- ・要支援者の思いを語れるような環境作りが重要であることを再認識できた。
- ・新しい内容を入れて頂き、感謝しています。
- ・見立て、組み立て(支援)の方法を考え、経済的状況を見える折各人の関係を考えることの方法や心ある支援を考えること等
- ・考え方を再認識できました。
- ・意思決定の在り方の中で、自己決定、本人にとっての最善の利益の確保の一致と社会参加での支援者決定になってしまうことなど、常に考えた支援が必要であることを学べて良かった。
- ・すごく分かりやすかったです。なかなか分かりづらいことが多いので、このような話が聞けたのが貴重でした。
- ・基本概念などはよく分かりましたが、やはり捉え方は大変難しい。
- ・権利擁護の歴史や仕組みについてとても良い勉強になった。
- ・クライアントの権利と利益を擁護するために代弁することの重要性を意識してきたが、クライアント自身が語れるような支援を行うことがより重要であると理解した。

#### 2、「良かった」

- ・スライドの説明の仕方早かったようです。もう少し詳しく説明してほしいところがありました。しかし権利擁護、権利と権益のくだりは自分の考えを整理するのに大変参考になりました。
- ・何回も聞くことで理解が深まるのを感じます。正義とケア、男児と女児の感じ方の違い、心にストンと落ちました。
- ・何度聞いてもなるほどと思います。何人かの方を実際にかかわりを持ち始めたばかりで、常に森高さんに相談しながら、少しずつ当事者の方に寄り添えるよう努力していきたいと思います。

#### 4)「意思決定支援とエンパワメント」について、ご意見・ご感想をお書きください。

1、大変良かった	20名
2、良かった	14名
3、よく分からなかった	0名

※印なし 2名

#### 1、「大変良かった」

- ・意思決定支援と代行決定支援の違いと役割についてとても良い勉強になった。

- ・介護保険のプランの中で”意思決定”が求められるようになった流れが理解できました。
- ・地域連携など、国縣市町村で行わなければならないだろうが、方針など具体的なものは決まらない、決められないのかもしれないと思う。当事者のエンパワメントを大事にしていきたい。
- ・意思決定支援と代行決定を考える良い機会となった。一人で抱え込まずチームで判断すること。
- ・意思決定のための成年後見制度の活用であるため、利用促進、基本計画の目的も制度利用ではなく権利擁護・意思決定支援の促進であると理解した。
- ・国が成年後見の利用促進ではなく、権利擁護の地域連携ネットワークの構築が目標であることが分かった。
- ・能力存在推定に基づく支援。  
成年後見制度利用促進についての国の施策や今後の動向について、新ためて理解を深めることができた。

## 2、「良かった」

- ・中核機関の設置の説明をしていただきました。今現在あるのかないのか確認はできませんでしたが、あったらよいと思いました。
- ・全体的に事例が練られていて自分の業務にもつながる気がした。
- ・経済的状况や役割(社会的)他に生活状況等を考える。
- ・いろいろな事例の考え方がよくわかりました。

- 5)「グループワーク」、「各グループからの報告、事例解説とまとめ」について、ご意見・ご感想をお書きください。

1、大変良かった	23名
2、良かった	11名
3、よく分からなかった	0名

※印なし 2名

## 1、「大変良かった」

- ・整理の仕方が参考になりました。
- ・とても楽しく学びました。ありがとうございました。
- ・チームで考えて意見を出し合うことによって、自分の考えもまとまってゆく。今まで知らなかったことも知り得て勉強になりました。解説も楽しく聞けて参考になりました。
- ・いろんな意見が聞けて、最後に考え方が整理できてよかったです。
- ・今後もお一人おひとりの気持ちを大切に温かい気持ちで支援にあたりたいと思いました。



- ・一人では見つけられない視点がたくさんあり、ケースを話し合う上では情報共有は大切だと感じた。「見立て」をすることはとても難しいが、常に見立てをたてる考えを持ち支援できるようにしたい。
- ・専門的な支援方法の勉強になりました。
- ・文章からいろいろなことを読み解いていく必要性、難しさを感じました。  
事例解説後での その後のことお聞きしたら、ぎりぎりまで動けない？難しさがるのかと考えさせられました。
- ・すごく活発に話せる人ができ、発表もみんな良いもので、まとめも面白く聞いた。
- ・いつもは頭の中で考え組み立てて行くので、ワークシートを使って見立て、手立てを話し合いながら行っていくことの大切さを学びました。ありがとうございました。(解説が分かりやすかったです)
- ・グループワークで他の方の意見を聞くことで、自分の心が整理され、一つのことを多方面から見て考え、理解を深めることができたような気がします。
- ・各般の意見、各々考え方の深さ等、考え 大変勉強になりました。
- ・支援の考え方の手順がよく理解できました。
- ・見立てでつまづきましたが、手立ては良かったと思います。
- ・事例についての検討をグループワーク形式で行い、よかった。また事例解説(複合ケースの考え方)が非常にわかりやすかった。

## 2、「良かった」

- ・支援に役立てられたらと思った。
- ・事例解説の先生の話、分かりやすく、話を聞いてみたいと思いました。
- ・上田先生のお話、分かりやすく楽しい講義でした。ありがとうございました。
- ・皆さんのいろんな見方や意見が知れてよかった。事例を見て[たいへん]と思いましたが、「よくあるよね」と聞いてショックを隠せませんでした。
- ・みんな勉強になりました。
- ・自分たちだけでは難しかったが、他グループの意見が参考になりました。

## 3、印なし

- ・演習の中に、論点の考え方についてのアドバイスを頂けたので学びにつながった。

## 研修概要

1. 日 時 平成30年9月27日(木) 10:00～16:00

2. 会 場 柏崎市総合福祉センター 作業研修室

3. 参加者数 42人(市内 27人、市外 15人、県外 0人)

### 4. プログラム

#### (1) 講義「権利擁護支援の基本」

講師：佐藤 彰一さん

(全国権利擁護支援ネットワーク代表・國學院大學教授・弁護士)

#### (2) 講義「意思決定支援とエンパワメント」

講師：佐藤 彰一さん

#### (3) グループワーク(権利擁護支援ケースの事例検討)

講師：今井 友乃さん

(NPO法人 知多地域成年後見センター事務局長・全国権利擁護支援ネットワーク事務局長)

上田 晴男さん(NPO法人 PAS ネット理事長)

#### (4) 各グループからの報告、事例解説とまとめ

上田 晴男さん

### 5. 報 告

柏崎市社会福祉協議会で活動している市民後見人さんのフォローアップ研修会として、計画いたしました。あわせて、県内の社会福祉協議会で、法人後見活動や日常生活自立支援事業に携わっている方や、障害者や高齢者の支援に携わっているみなさんと、一緒に学ぶ貴重な機会となりました。

「権利擁護支援」「意思決定支援」について、日々の業務で悩んだり迷ったりすることが、今回の研修を受けることで、整理することができたという声がたくさんありました。また、グループワークを通じて、様々な見方があることを学ぶことができたという声も多かったです。特に、市民後見人として活動しているみなさんは、事例検討が初めてだという方も多く、今後も、こういった研修の機会をもっていく重要性を感じました。

この度は、お忙しい中、講師のみなさんから柏崎においでいただきまして、本当にありがとうございました。



作成者 : 社会福祉法人 柏崎社会福祉協議会 大塚真光子さん

## アンケートまとめ

1) (A) お住まい、(B) 職種 (所属) についてお尋ねします。 ※ (B) は複数可

(A) 新潟県	38名	柏崎市	23名
		上越市	4名
		南魚沼市	3名
		新潟市	1名
		村上市	1名
		燕市	1名
		佐渡市	1名
		未回答	4名
(B) 1. 自治体			1名
2. 社会福祉協議会			22名
3. 福祉職 (高齢)			5名
4. 福祉職 (障害)			4名
5. 法律職			2名
6. AS-J 会員団体			
7. その他			4名 (市民後見支援員)

2) 本研修は何でお知りになりましたか?

1. チラシ	10名
2. AS-J ホームページ	
3. 関係機関	22名
4. 友人・知人	1名
5. その他	5名

3) 「権利擁護支援の基本」について、ご意見・ご感想をお書きください。

1. 大変よかった	28名
2. よかった	10名
3. よくわからなかった	

・言葉で学ぶ時は、解ったつもりでも、現実には直面すると、学んだ通りにはいかず難しい、全て。

---

- ・人間存在への根本的、哲学的考察を促す、奥深い話だった。
- ・例会で、時間があったら話題にすることも大切と思います。
- ・事例をあげて話してもらって、よく理解できた。
- ・その方が自分の意見を言いにくいのなら、言える環境を作っていくという支援は、わかっている、できていないこともあるので、気にとめながら支援していきたいと思いました。
- ・権利擁護支援の黒衣の支援の考え方、「なるほど」と思いました。
- ・わかりやすいお話で勉強になりました。「どんな人でも、意思がある」ということを頭において、今後も支援していきたいと思います。
- ・代行決定と意思決定支援の区別が特にためになりました。
- ・午前のお話も、午後のグループワークもとてもおもしろかったです。
- ・スライドだけでは、メモが間に合わなかったのが、資料があればもっとよかったです。後ろの席だと、私の視力ではほぼ見えません。標題の文字は見えるのですが、残念です。
- ・以下の言葉が、大きな気づきとなりました。  
「私のことは、私抜きで決めるな」  
「同意権がない 権限がなくても意思決定支援はできる」  
「権利擁護は、答え、正解がないが、説明できなければならない」
- ・権利擁護支援とは何となく理解はしているつもりでしたが、この講義で話を聞くことができ、何となく・・・というところから、結構というところまで理解できたと思います。貴重な話を聞かせていただきました。
- ・今夏から、私が代表する動物愛護団体が始めた要支援者のペット飼育を有料でお手伝いする事業で、独居認知症高齢の男性に関わっています。認知症が進み、自分の生活もままならない方が、犬を適切に飼育できるのか？しかしながら、本人の「愛犬と一緒に居たい」「病院・施設は行きたくない」という意思を尊重しながら、最後まで自宅で暮らすことを見守るしかない状態です。『悩み続けることが自然である』という言葉に安心しました。
- ・対人支援者が常にかかえる悩み・・・これでよいのか？もっと他にやり方があるのか？といった思いは、当然であり自然である。日々の支援をあと押ししてもらったような気持ちになりました。
- ・実際に高齢者支援を行っている者として、権利擁護3つの要素の話は、大変参考になった。
- ・実際に今かかわっているケースに当てはめながら講義を拝聴することで、今の支援をふりかえることができ、とても参考になりました。
- ・とても勉強になりました。基本にたつて、相談業務を行いたいと思います。
- ・権利擁護の基本を学ぶことができた。
- ・正義とケアについて考えさせられた。
- ・介入・お節介に基準はない。悩むことは大切。気持ちが軽くなったと同時に、やはり難しいと感じた。
- ・権利擁護という「代弁する」というイメージが強かったのですが、本人自身が意思を表出する、できるようにまわりの環境を整えるという考えに変わってきていると



知り、改めて支援者である私たちの技術や能力の必要性を強く感じました。

4) 「意思決定支援とエンパワメント」について、ご意見・ご感想をお書きください。

1. 大変よかった 24名

2. よかった 11名

3. よくわからなかった

未回答 3名

- ・はじめて（前に教わったか？）専門的な話と思ったが、例をあげてわかりやすくしてくださった。
- ・短時間の話のため、もっと深い講義を受けられたらよいと思った。黒子の話がとてもわかりやすかった。
- ・エンパワメントという言葉は、聞いたことがあったが、実際どういうことなのかは、よくわかっていなかったなので、話を聞くことができてよかった。
- ・正義とケアの話、とても印象に残りました。ご本人の意思、支援者が本人の意思だと思うもの、支援者の思い・・・日々痛感しています。
- ・やはり資料があれば、そこに書き込みができるので、個人的には資料があればもっとよかったです。改めて、後見人の大変さを実感しました。
- ・主観的最善利益 VS 観察的最善利益、第三者最善利益
- ・なるほど！でした。自己決定…自分で決めることを尊重すること、私のことを私抜きで決めることと、私のことを私だけで決めることの違い、納得しました。意思決定支援、代行決定、違うものなんですね。ありがとうございました。
- ・社会的承認・参加・エンパワー、高齢者支援に携わる身としては、なかなか上手く支援できていないのですが、意識すること、小さなことでも取り組むことをしていきたいと思いました。
- ・支援される方に、意思決定能力が「ある」ものとして、支援できないのは、支援者側の問題というのは、その通りだと思う。
- ・途中までとなりましたが、意思決定支援のベーシックな考え方を、再度確認することができました。時間があれば、最後まで聴きたい内容でした。ありがとうございました。
- ・意思決定支援と代行決定の基準がなく、皆悩まれているところだと知れてよかった。
- ・自己決定の尊重を優先しつつも、社会的承認が得られないケースがあったり、自己決定ができない場合は、チームで判断するのが大事と感じた。
- ・難しい話だったが、よかった。
- ・方法の講義としては大変よかった。実際に自分で対応時は、自我の対応が強くなると思いました。問題に対する判断の難しさを感じました。アセスメントの重要性を、勉強させていただきました。
- ・支援には、正解がなく、1人ひとりの状況にあわせて支援をしていくことが大切だということ学びました。

5) 「グループワーク」、「各グループからの報告、事例解説とまとめ」について、  
ご意見・ご感想をお書きください。

1. 大変よかった	21名
2. よかった	5名
3. よくわからなかった	1名
未回答	11名

・勉強になりました。人間はしたたかだと、だから面白いと思いました。話し方がとても面白かったです。

・施設では、施設外の方と話し合う機会があまりないので、このような機会に参加できてよかったです。自分の考えてみないことが色々と話にでてきて、刺激を受けることができました。また、このような機会があれば参加したいです。

・最後のまとめでは、今の世の中、人を信じられないのかしら？と。信じることで、互いがエンパワーされるのでは？と思っているのですが、前提にアセスメントがあると思いました。

・ワークを通し、色々な意見を聞け、勉強になりました。先生の解説も、楽しく、わかりやすかったです。

・考え方、方向性のつくり方をよく学べた。今後の自分の活動に役立てたい。最後の今井さんの結論にびっくり！

・グループのメンバーによって、見立てや支援の方向が変わるんだと改めて感じました。

・グループで検討し、報告することで、各グループの意見をきけてよかった。

・経験不足が身にしみます。

・立場によって、いろいろな考えがあり、支援をしていくにあたって、チームでの対応が有効であることがわかった。とても楽しく聞けました。ありがとうございます。

・良い人と思いつむのではなく、時には悪い人と思うことも必要。

・様々な意見をきけてよかった。

・色々な考え方があるが、多くの人が意見を出し合うことが重要と感じた。

・多くの意見をきくことができ、とても勉強になりました。また、事例検討の方法について知ることができ、今後の支援に活かしていきたいです。

・解説もわかりやすく、見立てをつけていくことが必要だと改めて感じました。

・複雑難題、大変勉強になりました。

・色々な意見を聞くことができてよかったです。

## 研修概要

1. 日 時 平成30年11月2日（金） 10:00～16:00
2. 会 場 北見市総合福祉会館 体育集会室
3. 参加者数 49人（市内24人、市外14人、オホーツク管外11人）

### 4. プログラム

- (1) 講義「成年後見センター後見利用促進法等の理解と意思決定支援」  
講師：熊田 均さん（弁護士）

- (2) グループワーク（権利擁護支援ケースの事例検討）

権利擁護支援を軸にして

講師： 尾崎 史さん

（認定NPO法人あさがお所長・理事）

水戸 由子さん

（一般社団法人ジャスミン権利擁護センター代表理事）

今井 友乃さん

（NPO法人 知多地域成年後見センター事務局長・  
全国権利擁護支援ネットワーク事務局長）

### 5. 報 告

北見市で開催された権利擁護支援従事者研修は、参加者49人のうち北見市・津別町の市民後見人17人を加え開催された。

研修の講義は、「成年後見センター後見利用促進法等の理解と意思決定支援」をテーマに熊田弁護士が講話。成年後見制度発足から18年が経過し、使いにくい面が種々あるといわれながらも、利用者の実数は毎年1万人ずつ増加し、促進法による計画が進めば、益々増加が予想され、そのためにも適切な成年後見制度が地域で実施されるような機関が必要となる、と現状を踏まえ利用促進計画の策定の必要性とその内容について講話があった。

その際、重要となる意思決定支援の概念やイメージなど、具体的事例も出しながら講義を受けた。専門職だけでなく市民後見人の方が聞いても十分理解できる内容で、法律の専門家である弁護士の立場であるが福祉的考えが根底にあり、大変共感した講義であった。

午後からのグループワークは、権利擁護支援のケースを尾崎氏が事例紹介し、個人ワーク、グループワークで7グループに分かれ演習を行った。

今回の事例は、直接成年後見制度に関する事例でなく、午前中に行われた熊田弁護士の



講話で話された意思決定支援に関わる支援困難事例であった。個人ワークでは、事例を読み取ったままの簡単なエコマップであったのが、グループワークで検討することで、多くの関係機関が登場、同時に関係機関との連携が出てきて、支援のありようがたくさん出てくるグループワークであった。

尾崎氏は最後に、権利擁護支援の実践は、「意思決定支援」「法的支援」「生活支援」の3つの輪が重なり合って実践されるもの、と締めくくり、その意味が理解できたグループワークであったと思う。

道東地区では初めての権利擁護支援従事者研修であったが、大変有意義で学ぶことが多い研修であった。

作成者 : 津別町社会福祉協議会 山田 英孝

# 権利擁護支援従事者研修 H30.11.2 北海道北見市



権利擁護支援従事者研修（11月2日・北見市総合福祉会館）

アンケート集計結果

回答数：20

1) (A) お住まいは

都道府県		市区町村			
北海道	20名	北見市	10名	足寄町	1名
	名	津別町	3名	網走市	1名
	名	標茶町	2名	清里町	1名
	名	陸別町	1名	無記入	1名

(B) 職種（所属） ※複数回答可

1、自治体	4名
2、社会福祉協議会	6名
3、福祉職（高齢）	2名
4、福祉職（障害）	0名
5、法律職	0名
6、AS-J会員団体	0名
7、その他	9名（市民後見人3、ボランティア1、NPO法人職員1、社協の法人後見支援員1、民生児童委員1、無記入2）

2) 本研修は何でお知りになりましたか？ ※複数回答可

1、チラシ	5名
2、AS-Jホームページ	0名
3、関係機関	15名
4、友人・知人	1名
5、その他	2名

3) 「成年後見利用促進法等の理解と意思決定支援」について、ご意見・ご感想をお書きください。

1、大変良かった	12名
2、良かった	8名
3、よく分からなかった	0名

1、「大変良かった」

- ・意思決定支援について理解できました。現実には難しいこともあると思います。

- ・成年後見制度を検討するとどうしても代理・代行や取消権を考えてしまうが、本人の意思決定支援の観点に従事者研修の重要だと再認識しました。
- ・マイナス面とプラス面両方の情報があり、分かりやすかった。
- ・理解がとて進みました。
- ・他の人の見守り、相談に乗ってあげる支援、必要な人に届くという事が大事。
- ・市民後見人の役割はどの範囲までなのか。ネットワークの全体との関りはどうあるべきなのか。具体的な将来像を示して頂ければ…と思います。
- ・意思決定支援について分かりやすく後援して頂き、何となくではありますが理解できた気がします。促進法による市町村計画についても内部協議していかなくてはならないと思いました。
- ・被後見人に対して”判断能力“不十分という発想で”本人の最善の利益“”本人のために“ということで判断することが多々ありました。この先、本人の決定ではなく、後見人判断という事の線が難しい。
- ・自分の立ち位置をいつも考えています。意思決定についてパラダイム転換は難しいですが、全くその通りだと思いました。後見人の資質向上のため、研修が必要と感じました。
- ・具体的に法令のことなど話して下さって分かりやすかった、支援者として日々思い悩むこともあり、多くを学び、参考になりました。機会があれば再度このような研修に参加したいと思います。
- ・本人のためにといいながら支援しているが、再度内容をチェックしたい。

## 2、「良かった」

- ・「権利擁護」というと成年後見に直結しがちですが、それだけではないという視点を学べて良かったです。
- ・パラダイム転換の発想は初めて聞きました。成年後見制度もそうですが、全ての相談業務において通じるものがあると思いました。根本的に利用促進法について知らないことが多すぎたと感じました。
- ・成年後見制度利用促進法、制度の現況、意思決定支援等多く参考になった。
- ・第一に感じたことは、意思決定支援の範囲が大変広いと思いました。本人の最善の利益をふまえて関わった事でも確認ができない…ただ、佐藤彰一教授～能力不存在推定と能力存在推定への発想には気持ちが軽くなった。パラダイム転換での「ある」と推測する方向への」考え方に同意見である。
- ・障害の権利条約からの流れについて整理できました。1ステージ→2ステージに入っている方への意思決定、親的な立ち位置で考えていくのか、本人の意思として尊重するのか代理権の行使、その選択が非常に難しいと改めて感じました。自分なりの根拠づくりとチームでの検討を重ねていくことから始めてみたいと思いました。
- ・中核機関と協議会の運営は同じ機関が担うというイメージなのではないでしょうか。小さな自治

体では、全てが一体で大変なような気がしました。医療同意の一応のガイドライン、非常に参考になりました、グレーゾーンが多く、もう少し明確なガイドラインがあると良いといつも感じています。

4) 「グループワーク」について、ご意見・ご感想をお書きください。

1、大変良かった	12名
2、良かった	7名
3、よく分からなかった	0名

※業務都合により、欠席 1名

1、「大変良かった」

- ・同じ施設の方がすることが全ての生活支援を担うと、利益相反となり、考え方も片寄ることが、本日のグループワークを通して理解することができました。様々な立ち位置の方、見方が違うと色々な意見が出るのだと改めて勉強になりました。ありがとうございました。
- ・自分以外の意見は大変参考になりました。
- ・色々な職場の方が集まってより良いものができたと思う。
- ・色々な気づきをさせられた。障害関係の知識が少ないことを改めて痛感した。
- ・とても色々な意見を話し合えて良かったです。時間配分も適切だったと思います。  
(Cさんの困りごとを聴くという視点欠けてましたね)
- ・ケースの1人1人に向き合った課題・支援が話し合われたが、もっと時間をかけて具体的な事を話す場となれば良かったと思います。メンバーの方々が優しい意見を出して頂いたので、もっと話をしたかったです。
- ・実際には確かに上手くいかないことも多いのですが、皆さんからの意見を聞いて、自分の支援がどうだったのか、視点で足りないところがなかったか分かった気がします。楽しいグループワークでした。ありがとうございました。
- ・グループの発言が活発で面白かった。
- ・色々な考え方、意見が出て大変勉強になった。

2、「良かった」

- ・事例の見立て→支援の組み立て→対応策、エコマップの作製での線の太さなど参考にしたい。
- ・グループワークでは、自分一人の見立ての2～3倍の対応策や案が出て驚いた。独りよがりで見立て、見方を気を付け、早速「パラダイム転換」ができるように注意したいと思う。参加させて頂き、大変勉強になりました。
- ・グループ皆さんの意見を聞けたことは良かった。権利擁護支援を具体的にまとめて頂いたことがとても参考になりました。

## 研修概要

1. 日 時 平成30年11月23日（金・祝） 10:00～16:00
2. 会 場 萩市総合福祉センター
3. 参加者数 38人（市内20人、市外16人、県外2人）
4. プログラム
  - (1) 講義「意思決定支援と成年後見制度利用促進の国の動向」  
講師：佐藤 彰一さん  
(全国権利擁護支援ネットワーク代表・國學院大學法学部教授・弁護士)
  - (2) グループワーク（権利擁護支援ケースの事例検討）  
権利擁護支援を軸にして  
講師： 住田 敦子さん  
(NPO法人 尾張東部成年後見センターセンター長)  
今井 友乃さん  
(NPO法人 知多地域成年後見センター事務局長・  
全国権利擁護支援ネットワーク事務局長)

## 5. 報 告

萩市で開催された権利擁護支援従事者研修は、市外、県外からの参加者も加えて38人の参加者で開催されました。萩市社会福祉協議会による協力も得て、後見活動や日常生活自立支援事業に携わっている方々や、障害者や高齢者の支援に携わっている方々と、一緒に権利擁護や成年後見制度、意思決定支援を学ぶ貴重な機会となりました。

研修の前半では、「意思決定支援と成年後見制度利用促進の国の動向」をテーマに佐藤彰一先生にご講義をいただきました。成年後見制度利用促進基本計画を巡る最近の動向を分かりやすくご説明いただくとともに、障害者施設での虐待や意思決定支援など実際の支援の場面における権利擁護の諸問題にも触れていただき、大変興味深く、考えさせられることの多いご講義でした。

後半では、住田敦子氏より、更に詳しく成年後見制度利用促進基本計画についてのお話をしていただき、その後、参加者の方々によるグループ・ワークを実施しました。グループワークでは、意思決定支援に関わる支援困難の事例が取り上げられましたが、グループワークで様々な職種の方々がそれぞれの立場から意見を出し合い、検討することで、関係機関との連携の必要性を実感するとともに、様々な支援の在り方を学ぶことが出来た、有意義なグループワークになりました。最後に、グループワーク講師の今井友乃氏からは、権



利擁護支援の場においては、支援者間の連携が必要であるという話がされ、その意味を実感できたグループワークでした。



作成者 : 一般社団法人萩長門成年後見センター  
代表理事 弁護士 山口 正之さん

権利擁護支援従事者研修（11月23日・萩市総合福祉会館）

アンケート集計結果

回答数：22

1) (A) お住まいは

都道府県		市区町村			
山口県	20名	萩市	9名	長門市	1名
岡山県	1名	山口市	5名		名
島根県	1名	防府市	3名		名
	名	下関市	1名	瀬戸内市	1名
	名	美祢市	1名	益田市	1名

(B) 職種（所属） ※複数回答可

1、自治体	1名
2、社会福祉協議会	0名
3、福祉職（高齢）	11名
4、福祉職（障害）	4名
5、法律職	5名
6、AS-J会員団体	1名
7、その他	1名（医療関係）

2) 本研修は何でお知りになりましたか？ ※複数回答可

1、チラシ	8名
2、AS-Jホームページ	1名
3、関係機関	7名
4、友人・知人	4名
5、その他	1名（弁護士会）
無記入	1名

3) 「意思決定支援と成年後見制度利用促進の国の動向」について、ご意見・ご感想をお書きください。

1、大変良かった	14名
2、良かった	5名
3、よく分からなかった	0名

※無記入 3名



## 1、「大変良かった」

- ・「権利擁護」という言葉だけが先行し、実際の内容やどういったものかが分からない状況だった。高齢者福祉という業務の中では、色々な場面で意思決定を求められることがあるが、何を基に利用者様たちへ説明し、本人が良い生活を送れるか、悩みの種だったが、今日の研修で一つその悩みが解決したように思う。
- ・「代行決定」が成年後見人をさせて頂いている自身に突き刺さる言葉でした。私も他者に後見人のお話をさせて頂き際に「黒子」の例を出させて頂いています。意思決定支援を意識して職務に当たりたいと思います。
- ・後見人として本人の意思決定支援ではなく、代行決定をしている場合が多く、反省しなければならない。結果OKではなく、意思決定支援の過程を丁寧に行う活動へと転換していかなければならない時期であると自覚している。疎かにしがちであるが、また困難なことではあるが、本人の意思決定尊重と意思決定支援に努めたい。本人の決定権を奪う事で、結果的に支援者ではなく、害を為す人物とならないように気を付けたい。
- ・私は先輩職員から「その人の最善の利益を考えなさい」と言われたことを事あるごとに思い出して支援してきました。今後もこの言葉と意思決定を尊重しながら支援していきたいと思いました。
- ・意思決定支援の在り方、促進法などについて整理できて良かった。

## 2、「良かった」

- ・理解が少しずつ進みました。利用者様に関しての意思決定支援をどう取り組むのかサビ管の立場でどう考えていくかと思い参加させて頂きました。先生のお話を聞きながら「ドキッ」とすることが多く、考えさせられてしまいましたが、逆にその思いに気づかされたと思っています。今日はありがとうございました。
- ・やまゆり園の事例の話と千葉の話が良かった。国の動向については少し難しかった。
- ・生活支援のみにしか関わって来なかったので、成年後見制度の話が勉強になりました。

## 4)「グループワーク（事例検討）権利擁護支援を軸にして」について、ご意見・ご感想をお書きください。

1、大変良かった	14名
2、良かった	7名
3、よく分からなかった	0名

※印なし 1名

### 1、「大変良かった」

- ・色々な専門職のグループワークで、それぞれの立場からの話が聞けて良かったです。発表を聞いてもいろいろな介入方法があり参考になりました。やはり一人で悩まずネットワークを活用し、色々な意見を聞きより良い支援をしていきたいと思いました。

- ・専門職からの意見が聞け、とても参考になりました。参加して良かったです。ありがとうございました。
- ・はじめてのケースワークでした。慣れていないのでどうしたらいいか分からなかったのですが、やってみて大変勉強になりました。
- ・いろいろな職種の人と意見交換ができて良かったです。また参加したいです。
- ・色々な職種の方々の考え方を学ばせてもらいました。一人での支援ではなくチームで支援することで、グループダイナミクスが起こるんだと今日楽しく学ばせていただきました。ありがとうございました。
- ・多職種と一緒に多様な視点に立って自由に意見を交わすことで、大変勉強になった、気づきを得られた。今日のワークで得られたことを日々の活動にフィードバックして、独善に陥らぬようにしたい。  
(後見人) 単独、1つの援助職だけで解決できる課題はおそらく少ない、情報共有・ネットワーク形成を意識していきたい。
- ・勉強になる事例をありがとうございました。
- ・実際のケースとして直面したことがあったが、その当時にこういったグループワークのようにしっかり話し合う場があれば、当時の利用者様たちももっと良い人生が送れたのではないかとふと思った。
- ・生活困窮者支援については気づかなかった。もっと積極的に利用していきたい。

## 2、「良かった」

- ・「意思決定支援」という観点から「支援方法」に重点を置いた内容の方が良いと思う。
- ・それぞれの専門的な立場からの意見を聞けて良かったと思います。

## 研修概要

1. 日 時 平成31年1月9日(水) 10:00～16:00

2. 会 場 奈良市文化会館 2階 集会室A・B

3. 参加者数 81人(市内54人、市外23人、県外4人)

### 4. プログラム

#### (1) 講義「権利擁護支援の基本」

講師：佐藤 彰一さん

(全国権利擁護支援ネットワーク代表・國學院大學法学部教授・弁護士)

#### (2) 講義「意思決定支援とエンパワメント」

講師：佐藤 彰一さん

#### (3) グループワーク(権利擁護支援ケースの事例検討)

権利擁護支援を軸にして

講師：今井 友乃さん(NPO法人 知多地域成年後見センター事務局長・  
全国権利擁護支援ネットワーク事務局長)

尾崎 史さん(NPO法人 あさがお理事)

### 5. 報 告

10:10～11:00 権利擁護支援の基本

11:10～12:00 意思決定とエンパワメント

#### ■権利擁護支援とは・・・

○“権利擁護”という言葉は福祉の言葉である。

→アドボカシーを権利擁護と呼び、保護の対象だった高齢者を主体として捉えた。

対象者は様々、事情はそれぞれだが、伝えることが困難か伝えることが弱く社会的に辛い思いをしている人たちが人間らしい生活が出来るように代弁活動を行う。

※人の思いを代わって伝えることは難しい。

近年はセルフアドボカシーを主張。(セルフアドボカシー：その人のことはその人自身が一番よくわかっている。本人が伝えられる活動をする。)

○アドボカシー(権利擁護)の要素

#### ① 自己決定の尊重

本人の思いを尊重しなければ本人が悲しい思いをする。

(ex)長期施設入所中の高齢者

主張が無視される→話さない→言葉を失う

※生活が本人にとってふさわしいものになるように支援する。

② ご本人にとって（良い生活）最善利益の確保

本人が選んだ生活/本人が選んだものが最適か否か議論される。

(ex)自分の家で住み続けたい。←本人の希望。

家はゴミ屋敷で転倒し怪我をする危険がある時は・・・？

※支援者から見て①と②が一致しない場合→問題・・・悩みの種になる。

①と②が一致しないことを認識する必要がある。

③ 社会的承認（連帯性・エンパワメント・外向性・内向き）

人と関わって生きているから・・・。

・唯一の正解はなく、正解を求めると苦しくなる。

ただし・・・自分が何をしているか説明できなければならない。

・他の意見が出てくることもある。→戦うしかないが、どちらが正解かは言えない。

・①～③を満たしているか考える必要がある。

#### ■三つのエピソード

○本人の思い、自己決定を尊重する。（家族の思いを尊重する？）

(ex)高齢者（女性）の独居世帯。配偶者が亡くなり独居となった。近隣に住む嫁が様子を見に通っている。→嫁は義母が一人暮らしで淋しいのではないかと考えた。

→施設入所を勧めた。

後見人①：嫁の意向に沿って入所手続きを進める。

後見人②：義母の思いを聴いた。自宅での生活を希望。

→在宅サービスを利用し自宅での生活を継続。

※家族の思っている本人の思いは必ずしも一致しない。

○私の言うことを尊重する。

(ex)就労している障害者。服薬管理が困難の為、糖尿病が悪化し医療食の利用が必要となったが本人は拒否。

後見人①：本人の意思を尊重し、放置。→病状が悪化。

後見人②：工夫をする。本人が提案を拒否する理由を聴く。

医療食は冷たいから嫌。

※本人が嫌がることを無理強いしない。本人の自己決定を尊重する。→本人だけが決めることではない。＝アセスメントが必要。孤立させないアドバイスが必要。

○権限がないとなにも出来ない？

(ex)施設入所中に骨折。手術が必要だが同意できる親族がいない。

後見人①：同意できない。→手術が出来ず、車いす生活となる。

後見人②：本人の意向を医師等に伝える。→手術し回復。

※権限がないから何もしないはNG。

本人の意思を探って行動することが大切。

■正義とケアを考える。

(ex)延命治療について・・・幸福のマーゴは何者か？

延命治療を希望しない高齢者（マーゴ）が認知症になった。

日々の生活の認知はないが、笑顔で暮らしている。

○ロナルド・ドウォーキング教授

・自分が決めたことが尊重されない。→自分が尊重されていないのでは？

・人間は強い。＝自己決定が出来る。

→認知症になると判断能力が無くなり、自己決定が出来なくなる。

○キャロル・ギリオン氏

・小学生対象に質問をした。

(ex)重症の妻の為に薬が必要。薬を飲めば妻は助かるが薬が高額の為、購入できない。薬は近くの薬局に売っている。

→・薬を盗む？盗まない？

→・男の子：盗む。命が一番大事だから。

・女の子：盗んではいけない。他の解決策を夫と一緒に考える。

※正義とは違う考え方がある。

ケアは目の前にいる人を見る。正義の倫理とは別。

■意思決定支援とはなにか？

○代行決定

判断能力がないと思われる。（高齢者）→代わって判断する。

→どんなに重度の知的障害があっても、認知症でも思いや考えがある。

→能力存在推定（パラダイムの転換）→あると考える。意思決定支援。（自己決定）

○日本における権利擁護

・意思決定支援には代行決定支援も含まれる。

・成年後見は代行決定支援。

・後見人と被後見人を周囲の人と支援する。

→地域でチーム、中核機関を作る。

→アセスメントを充実させる。①広報機能②相談機能③成年後見制度利用促進機能（委任者の調整、マッチング等の支援/担い手の育成・活動促進）

※成年後見制度はツールのひとつ

権利擁護の光が届かない人への支援が大事。

■成年後見人は意思決定支援者なのか？

・判断能力のない人に成年後見人をつける。

→仕事をするときには被成年後見人の意思を尊重する。

・基本的には代行決定になる。意思決定能力の意思を尊重して支援を行う。

・何をどうすればいいのかよくわからない。→代行決定支援の中で意思決定？

構造上の不備もある。促進が困難。

- ・家族が後見から離れつつある。
- ・制度的に欠陥がある。→中核機関が必要。

#### ■ガイドラインは？

- ・意思決定と代行支援が混在している。→意思決定を先行させるべき。  
実務を分ける。(意思決定と代行支援)
- ※アセスメントをしっかりとる。=チームで話し合う。
- ※センスと能力が要求される。

#### 13：00～16：00 グループワーク

##### ○10 グループに分かれ事例検討を行う。

- ・個人ワークでシートを埋めていく。

↓

- ・記入したシートを元にそれぞれの意見を出し合う。

↓

- ・模造紙にメンバーの意見を集約し、シートを完成させる。

##### ○グループ発表

- ・いろんな視点からの意見が出てきて勉強になった。
- ・自分ひとりでは思いつかないアプローチの方法がわかった。
- ・グループでシェアすることにより、アプローチに広がりが出て来た。
- ・ワークをスタートした時は家族ひとりひとりがどこにも繋がっていないと感じたが、少しずつ繋がっていきけることがわかった。
- ・家族ひとりひとりに寄り添い思いを聴くことで解決の糸口がつかめることもある。
- ・必要な支援がそれぞれ異なり、バラバラになってしまう。支援者を取りまとめる役割を担う人も必要。

#### <感想>

研修を通じて、権利擁護の基本的な考え方、支援をするときに気を付けること等について学ぶことが出来た。どんな人にも意思がある。本人の意思を尊重することが大事。本人を置き去りにした支援を行わない。また、行き詰まった時にはチームで一緒に考えれば違ったアイデアが生まれることもグループワークを通じて体験することも出来た。“支援者のセンスと能力が要求される”という一言をお伺いし、責任をもって支援に取り組むと共に地域で安心して暮らせるためにネットワーク構築や相互に学び合い、交流し協働することの必要性も実感した。

作成者 : 社会福祉法人 奈良市社会福祉協議会 松本 敬子さん





権利擁護支援従事者研修（1月9日・奈良県文化会館）  
アンケート集計結果

回答数：52

1) (A) お住まいは

都道府県		市区町村			
奈良県	48名	奈良市	25名	葛城市	1名
京都府	4名	生駒市	5名	川西町	1名
		天理市	4名	三郷町	1名
		橿原市	2名	大和郡山市	1名
		大和高田市	2名	香芝市	1名
		平群町	1名	山添村	1名
無記入	3名	河合町	1名	京都市	3名

(B) 職種（所属） ※複数回答可

1、自治体	5名
2、社会福祉協議会	19名
3、福祉職（高齢）	4名
4、福祉職（障害）	11名
5、法律職	1名
6、AS-J会員団体	3名
7、その他	17名（病院4名、一般社団2名、医療ソーシャルワーカー1名、市民後見人1名、障害者の親1名、児童デイサービス1名、NPO法人1名、福祉団体1名、社労士1名）

2) 本研修は何でお知りになりましたか？ ※複数回答可

1、チラシ	23名
2、AS-Jホームページ	2名
3、関係機関	20名
4、友人・知人	5名
5、その他	3名（上司1名、職場1名、メールニュース1名）

3) 「意思決定支援と成年後見制度利用促進の国の動向」について、ご意見・ご感想をお書きください。



1、大変良かった	34名
2、良かった	15名
3、よく分からなかった	0名

※無記入 3名

#### 1、「大変良かった」

- ・アドヴォカシーの考え方が理解できました。
- ・意思決定支援と代行決定の話については、日々支援させて頂く中で葛藤があることだったので考え方の整理ができた。役割上、決定に関する相談も多く、何か回答を求められているように感じる場面が多いが、本人を中心にしてチームで検討するという事を大事にしていくという点を再度確認できて良かった。
- ・悩みながら支援することが大事だと言われたことがホッとできました。ありがとうございました。
- ・急きょ参加させて頂きありがとうございました。まだ勉強を始めたばかりですので、今後も学んでいきたいと思います。
- ・ありがとうございました。
- ・権利擁護に係る概念がよく分かって良かったです。
- ・今までの考え方を再確認する機会になった。
- ・もっと聞きたかったです。
- ・分かりやすく良かったです。
- ・権利擁護という言葉はよく聞いていましたが、支援の実際がよくわかっていなかったため、今回の研修に参加させていただきました。とても整理した説明書が聞け、大変勉強になりました。退院支援の場面でも意思決定支援が必要なことがあるので、活かせればと思います。
- ・意思決定支援、代行支援のことばの違いなどよく分かりました。考え方の混乱、悩みの整理になりました。
- ・権利擁護支援の基本を分かりやすく説明して下さいました。その三大要素の中の自己決定の尊重と（ご本人にとって最善の）利益の確保の関係をすることもでき、今まで抱えてきた疑問が少し解けたような気がします。
- ・社会福祉基礎構造改革前からアドヴォカシーについて悩んでいたことが、権利擁護の言葉になって更に複雑になり、より悩みが深くなっていたところです。利用促進法の中で何が求められているのかも不透明になったように思っていたのですが、今回の講義で少しスッキリしました。実践に活かせるかどうかはこれからの課題です。
- ・意思決定、代行決定について詳しく教えてもらえて良かった。矛盾点についても文字にしてもらってはっきりとした。
- ・日常生活自立支援事業を長く担当していますが、いつも意思決定支援については悩んでいたのがポイントを整理することができて良かったと思います。

- ・権利擁護を分かっているようで分かっていないことを突き付けられた。できているようでできていない。でも、正解がない、原理的に悩む構造になっているとの話で救われました。日々の後見業務で悩みの連続です。制度の欠陥も理解できて良かったです。ガイドラインに示されている考え方は、非常にセンスと能力を求められるが、そこに近づいていけるよう研鑽に努めたいと思える講義でした。ありがとうございました。
- ・成年後見制度の制度改正をせず、その運用の改善で利用者にメリットをもたらそうとする基本計画の考え方について、先生からそれに気づいて権利擁護を検討しなければならないことを指摘いただき大変参考になりました。松江地裁の判決に対する先生の論文も読ませて頂きましたが私は民法 858 条の解釈について司法と福祉の連携が必要だと思しますので、先生のご活躍を期待しています。
- ・業務内で何となく感じていた違和感や矛盾が整理しやすくなった。いつも、確認・相談・情報収集を繰り返しますが、松江の意向が分からないケースでは不安や疑問が残るので、考える際に参考にしたいと思います。
- ・権利擁護について分かりやすく教えて下さったので勉強になりました。意思決定支援の難しさも勉強になりました。
- ・「自己決定の尊重と最善の利益の確保の狭間で日々揺れていて良い。支援に正解はない。」明日から頑張れそうです。
- ・難しいことを分かりやすく、おもしろかった。
- ・権利擁護の3つの要素、意思決定支援の捉え方のお話は非常に参考になった。「権利擁護」という言葉が代行決定に傾く要因かと思えます。また、権利擁護のプロセスにはエンパワメントが不可欠であるため、その視点を持っていれば代行決定ではなく意思決定支援へとつながると思う。
- ・基本計画にひずみがあることを知りました。
- ・意思決定支援と代行決定の違い、代行決定は支援者の方に意思決定支援の能力がないという言葉に納得させられました。今まで自分が支援するときに引っかかっていた部分かと思えます。
- ・権利擁護支援について知ることができて勉強になりました。分かりやすい講義をありがとうございました。
- ・初めて聞くワードもあり、とても為になりました。意思決定支援、とても難しいと思いました。真っ暗ではなかったので、スクリーンが見えにくかったのが残念でした。
- ・権利擁護の要点を考えて意思決定支援をしていきたいと思えます。ありがとうございました。
- ・権利擁護支援をする上で何が大事かというところの整理ができ、とても良かったです。

## 2、「良かった」

- ・大切なポイントを短時間にまとめて分かりやすく解説して頂きました。

- ・いつも悩みながら支援をさせて頂いています。最初の研修の時、「寄り添い」という言葉で始めさせて頂きました。時を経て今までできるだけ忘れないようにと心がけて悩んだり、落ち込んだり社協の専門員さんに私が支えられて来ました。今日のお話でまた少し元気をもらい、もう少し社会参加させて頂こうと感じました。
- ・佐藤先生の講義は、哲学的な側面があり、物事（権利擁護）の捉え方について考えさせられる内容だった。本人の意向を代弁している者の考えがイコールではなく、支援側がどこに焦点を当てるのかブレないようにしないと適切な支援にあたることができないと感じた。
- ・権利擁護の基本知識を知ることができ、とても勉強になりました。
- ・分かりやすく説明していただきましたが、個人的には権利擁護とは保佐人、後見人などの違いや役割の説明をしてほしかったです。
- ・日常の中で考える思いが体系的に考える基本を話されて基本理念を考えさせられました。
- ・パラダイムシフト 本人がどのような状況であっても決定できる能力があるのが前提。
- ・何も知らない状態で受講したので、基礎的なところから詳しく教えて頂けて勉強になりました。

4) 「グループワーク（事例検討）権利擁護支援を軸にして」について、ご意見・ご感想をお書きください。

1、大変良かった	34名
2、良かった	18名
3、よく分からなかった	0名

1、「大変良かった」

- ・周りにいる人（Cさん）の相談窓口がない。誰かが担当者以外の人として関わっていると思いました。
- ・結局、サービス調整中心になってしまったと思う。プロセスを重視するためには、アセスメントが大事だと再認識できた。
- ・他職の方々とグループワークの機会が得られたので、勉強になりました。自分だけでは気づけなかった視点を知ることができました。今後も機会があれば、参加させて頂きたいと思います。本日は、ありがとうございました。
- ・いつもと違う経験ができて良かった。皆さんと「こう思う」「こうの方がいいと思う」と話し合えたことが楽しかった。いろんな意見が出たことと、それぞれ専門的な方々と話せて良かった。
- ・良いところを考えて支援を考えることを学んだ。せっかく全題材分作ったので、発表したかった。
- ・どこからどのような方法で、誰がアプローチするのか分からない事例でしたが、皆さん

とアセスメントをする中から何かしらの動きを始められるのだと実感しました。最後の事務局長さんのお話は本質を突いた内容で気持ちがすっきりしました。

- ・今まで悩んでやってきた支援が間違っていなかったことを再確認できたことに加え、新たな支援の視点など非常に頭も整理できました。グループのメンバーにも恵まれました。ありがとうございました。
- ・同じ事例に対して立場が違えばいろいろな視点があり、楽しかったです。エコマップを活用した支援の組み立てもとても有効な手法だと思いました。
- ・シートに書き出してみると気づかなかった事にも気づき、関係性がはっきりしてくるものだと思います。知らなかって言葉や機関もたくさんあり、勉強になりました。
- ・グループ内でいろいろ話ができて、それぞれの仕事での知識や経験からも話ができて良かった。実際にはこんなにスムーズな話になりにくいと思いますが、同じよう思いで参加している人がたくさんおられて心強く思いました。
- ・各分野の方々からのご意見、示唆とても勉強になりました。
- ・気づきを得られる場でした。見方、捉え方とそれらの違いの中で行動を決めていく場として
- ・グループ内に各分野の方々（社協、障害相談員、社労士、弁護士など）がおられたので、大変参考になったし、横の連携を進めることで得られる情報、考え方、知恵があるのだと改めて実感できました。また、まずは対象となる方の思いを聞く、聴くという原点に立ち返り学ぶことができました。
- ・様々な視点での意見が聞けて良かった。
- ・様々な職種の方に関わられて良かったです。
- ・実際の事例に触れることができて良かったです。
- ・いろいろな職種の方がおられ、いろいろな視点で考えることの大切さ、人とのつながりができたことは本当に良かったと思います。ありがとうございました。
- ・うまく話し合えました。
- ・チームでアプローチすることの大切さを学びました。援助関係を築いていくこと、自分で決定する過程を支えることの大切さを学びました。
- ・エコマップ等の言葉も知らないくらい未経験のことで、大変勉強になりました。今後学んで続けていきたいと思います。最後の事務局長の話もおもしろく、でも「支援を受けるのは嫌われている人」という話がとても心に残りました。
- ・他の専門職の話を聞く機会ができました。
- ・組み立て方、支援機関の種類等、利用の仕方が分かりました。
- ・職種の違うメンバーでいろいろな意見交換ができ、刺激になり、勉強になりました。
- ・皆さんの力での確な方針ができました。多くの人々の力、知恵をもらい受けて進める大切さ、この自由に話せる関係者間の場作りが意思決定支援の礎になると思います。意思決定支援のチーム作りへ。「皆に嫌われている人」（→レットル？）「人のつながりが無い

人」という言い方はどうでしょう？その生きづらさ、生きにくさを理解しての支援に思っています。

- ・色々な立場の方とグループワークできたことは大変良かったです。
- ・勉強させていただき、ありがとうございました。
- ・グループワークする中で社会資源ができ、本当に良かったです。

## 2、「良かった」

- ・正解がないので様々な意見が出て、自分にない新たな視点を知ることができた。1つの事例を通して世帯全体の世帯員それぞれの思いを推測したり、課題をアセスメントしていく過程の大切さを知れた。
- ・支援対象者を関係者が囲むのですが、リーダーシップは自然発生的で良いのかを疑問に感じます。
- ・一つの事例をいろんな職種の方と議論ができたことは良かったと思います。その人のストレングスを保ってから支援を組み立てることが大事な事と改めて感じた時間になりました。
- ・佐藤先生の講義が聞きたくて参加したのですが、すごく深まる事例でとても勉強になりました。グループワークも参加させて頂いて良かったです。
- ・自分が介入していない部分の支援、他分野の方の意見が聞けて良かったです。
- ・専門職の視点でまとめてしまっていく工程に首をかしげることが多かった。まず、本人の意思と向き合ったり、ひも解くことは話に挙がらなかったのが残念。Cを悪者にするのは違うと思った。それぞれを元の生活に、も違うと思った。新しく作るイメージ、想像力が欠けていた。
- ・自分の知らない分野の人がたくさんいて勉強になりました。
- ・グループ皆さんの知恵でワークができました。感心しました。最後のレジュメで支援の輪が広がったこと、エンパワメントを実現できたことがよくわかりました。
- ・いろいろな立場の仕事の方々と事例を通じて話し合いができたので良かったです。
- ・様々な立場にある者がそれぞれの知っている情報・知識を出してくれたことで、自分が知らないことを補うことができた。事例を通して、支援を開始した後の支援者間のやり取りはこんな感じなのかなあという印象を受けた。紙ベースに起こすことで整理ができ、どこから介入（手を付けていくのか）していくのか判断しやすくなると感じた。
- ・難しい社会問題をまた話し合えることでリフレッシュできました。これからは説明できるようになればと思います。精進していきます。スカイブルー色になるように。
- ・(一つの事例を) 時間をかけてのグループワークはあまり行う機会がないので良かった。

## 研修概要

1. 日 時 平成31年1月18日(金) 10:00～16:00
2. 会 場 アクトシティ浜松 コングレスセンター 52・53・54 会議室
3. 参加者数 44人(市内 32人、市外 12人(無回答含)、県外 0人)
4. プログラム

- (1) 講義「権利擁護支援の基本」

講師：佐藤 彰一さん

(全国権利擁護支援ネットワーク代表・國學院大學法学部教授・弁護士)

- (2) 講義「意思決定支援とエンパワメント」

講師：佐藤 彰一さん

- (3) グループワーク(権利擁護支援ケースの事例検討)

権利擁護支援を軸にして

講師：今井 友乃さん(NPO法人 知多地域成年後見センター事務局長・

全国権利擁護支援ネットワーク事務局長)

田邊 寿さん(社会福祉法人 伊賀市社会福祉協議会 地域福祉部長・

全国権利擁護支援ネットワーク副代表)

## 5. 報 告

参加者は、NPO法人で法人後見のスタッフとして従事している者、市社会福祉協議会、地域包括支援センター、障害者相談支援事業所等、日ごろ障害者や高齢者の権利擁護支援に携わっている者であった。午前中の佐藤氏による権利擁護支援の基本と意思決定支援、エンパワメントの講義は、従事者の基本的な姿勢や権利擁護の基本的な視座を再確認できる内容で、日ごろの活動を振り返るよい機会になった。午後の演習は、参加者がそれぞれ今後地域の中で、相互に連携し、共同していくべき人材であることから、地域の支援チーム作りのきっかけになった意義ある学びの機会であった。参加者それぞれが求めているニーズに合致し、高く満足の得られた研修であった。

作成者：高木誠一さん・鈴木容子さん





権利擁護支援従事者研修

(1月18日・浜松市アクトシティコンgresセンター) アンケート集計結果

回答数：38

1) (A) お住まいは

都道府県		市区町村			
静岡県	38名	浜松市	26名	菊川市	1名
		湖西市	3名	藤枝市	1名
		袋井市	2名	吉田市	1名
		磐田市	1名	無記入	2名
		掛川市	1名		

(B) 職種(所属) ※複数回答可

1、自治体	0名
2、社会福祉協議会	1名
3、福祉職(高齢)	7名
4、福祉職(障害)	14名
5、法律職	0名
6、AS-J会員団体	2名
7、その他	14名

※無回答 2名

2) 本研修は何でお知りになりましたか? ※複数回答可

1、チラシ	12名
2、AS-Jホームページ	0名
3、関係機関	17名
4、友人・知人	3名
5、その他	4名

※無回答 2名

3) 「権利擁護支援の基本」「意思決定支援とエンパワメント」について、ご意見・ご感想をお書きください。

1、大変良かった	24名
2、良かった	13名
3、よく分からなかった	1名



## 1、「大変良かった」

- 基本的なところが理解できました。
- 権利擁護についてあいまいなところがあったが、今日の研修でよく理解できた。
- 権利擁護がなぜ必要なのか、歴史的な流れから、現在の基本的な考え方を知ることができ、大変勉強になった。判断能力のない人に後見人が付いていれば安心というわけではなく、本人のためにきちんとアセスメントし、チームで検討し、悩み、寄り添っていけることができる後見人が必要だと思った。
- 権利擁護について、分かりやすい説明でとても面白い講義でした。ありがとうございました。
- 「代行決定」と「意思決定支援」の関係性を学べたことが良かった。
- 多職種の方々や専門職の方々とグループワークを経験させて頂き、なかなか無い機会として、とても貴重な時間をありがとうございました。私は重度の障害者支援施設に勤めさせて頂いていますが、自分自身の支援について考えるきっかけになったり、利用者さんの意思決定について、考えるきっかけになりました。今後、学んだことを頭に入れて生かして支援していきたいと思います。
- クライアント様やその家族を支えていく上で、立ち返るべき倫理観や考えるべきポイント。チーム支援の大切さを改めて考えさせられた。
- 自主的最善、観察的最善、第三者的最善、それぞれの立場での利益について再認識した気がします。能力の推定については、日々思うことが多いですが、参考にしていきたいと思います。
- 意思決定・代行決定…本当に難しい問題です。その時の状況に応じての判断という事ですが、やはりそこを1人で決定することはとても重いことです。その人の代わりに全てを決めるということですから…だからこそチームでというのは、本当にそうだと思います。みんなで考えながらという事がちゃんとできるシステムができていければと思います。
- 松江判決についてはショックを受けた。「知らない」では済まされないと強く感じた。
- 意思権利というより、社会的な役割ないし、市民としての責任を果たせなくきた人をいかに支援するかをソーシャルワークを実践してやってきている中で、視点を改める良い機会となりました。
- 意思決定支援の現状が分かったので良かった。
- 日々再確認要で忘れてはならないですね。
- 本人の意思の大切さ、それを導く支援の大切さを改めて感じました。
- 意思決定支援について悩みながら行っているケースがあり、とても参考になりました。
- 普段の支援を客観的に振り返ることができました。
- 話の内容が分かりやすく良かった。
- 明快に権利擁護、意思決定支援の知識を深めることができた。

- ・重度障害者施設で働いていますが、利用者が障害者であり、高齢化も進んでいくため、意思決定については本当に大切なことであると思います。支援者の都合や支援のしやすさで様々な事を決定してしまう事のないように、利用者の思い、幸福、生きがいを大切にしていけないといけないと改めて実感しました。利用者の望む支援を理解することは容易ではありませんが、チームを組んで利用者のための支援を続けていきたいと思っています。ありがとうございました。

## 2、「良かった」

- ・意思決定支援と代行決定の違いが分かった。「支援者は悩むもの、悩む人こそふさわしい」と聞いて安心しました。
- ・本人の意思決定と支援者が思う本人の利益を考慮した決定との間に違いがある場合の難しさについて
- ・いろいろと難しい問題等もあるなと思われた。
- ・意思決定支援を目指すために支援者のアセスメントが大切であり、支援者の力量によって、その人の人生が左右されることが理解できました。
- ・もう少し実践的な事例を学びたかった。
- ・改めて自己決定、本人にとっての最善の利益を考えさせてもらう機会になった。
- ・意思決定支援と代行決定の違いを知ることができた。分かりやすかった。
- ・自己決定の支援、チームで関わることなど、粗目手整理ができた。誰にとっての正義？正義の定義は？もう少し深く聞きたかった。裁判になった事件の話について関わっていた福祉職らは何をしていたのか？！医療は？そこも怠慢では？
- ・権利擁護支援、意思決定支援というものが、どういうことなのか、どこに視点を置いていかなければならないのか、よくわかった。これからの支援に活かしていきたいと思った。先生の説明や興和も分かりやすく、楽しく聞くことができた。ありがとうございました。
- ・本人の意向を大事にする意思決定支援をもっと知りたいと思った。
- ・本人の意思と現実の状況の狭間に悩むことも度々あるが、あつて当然のことと改めて感じた、チームでの検討も積み重ねた判断の継続性も感じた。
- ・パワーポイントの資料があるとより良かったと思います。先生の講義はとても分かりやすく、勉強になりました。ありがとうございました。

## 3、「よく分からなかった」

- ・多少参考にはなったが、今の自分の仕事とは別と思う。理解ができない部分が多いが、自分自身の勉強不足もあるが、今日の勉強会（研修）を最終まで聞き逃さないように努めます。最後まで参加できて良かったです。ありがとうございました。

4)「グループワーク（権利擁護支援ケースの事例検討）」について、ご意見・ご感想をお書きください。

1、大変良かった	22名
2、良かった	15名
3、よく分からなかった	1名

1、「大変良かった」

- ・職種により視点が違い大変勉強になりました。今後、多くの問題を抱えた家族に関わらなければいけなくなるが、1人1人の課題も踏まえながら、1つ1つ解決して、総合的に支援していかなければいけないと思いました。
- ・課題を狭い視点で捉えがちだったが、課題の原因（Cさん）は排除しないで支援が必要ということを理解できた。複合問題の時は、広い視点とチームで連携ということを意識したい。
- ・午前中に意思決定支援について学んだのに、グループワークをするときに私自身の視点が欠落していたことを反省した。
- ・様々な場所にお勤めの方々に学ばせて頂きながら、一つの事例を考えることができ、貴重な経験になりました。ありがとうございました。
- ・皆で考えるメリットを感じられた。
- ・一緒に考えるということで、異なる視点もまた知ることができた。事例解説の中で「ご本人をどうしたらいいのか」「現実の直視」という話があった。十分このことは分かりつつ、ガン告知さえもなかなかできない日本の社会、認知症を疑われる中で、新しい問題であることを思う、日々の中で、教育の中でも自己決定のことなどを学べる機会の必要性を思う。
- ・ご本人の意思を考えながら、どこにどう繋ぐか…ということをととても深く考えさせられました。勉強になりました。
- ・普段関わったことのない職種の方と話すことができ本当に勉強になりました。
- ・様々な立場の人がグループ内にいたのが、他の人に知っていることをワークを通して共有することができた。他のグループの発表を聞き、さらにそのような社会資源があることも知ることができた。
- ・地域、職種、年代の違うメンバーが集まり、活発な意見を聞くことができた。
- ・グループワークの良さは、自分一人では気が付けないことがメンバーの中からたくさん出てくること。久しぶりの作業だったが、まとめ方も含めて気づきの方が多く、改めて勉強になりました。
- ・現場での支援の難しさ、介入の困難さ、気づき、学ぶことができました。
- ・自分だけでは気づけない視点も気づくことができ良かった。
- ・様々な視点の方たちと情報交換ができました。自分の知識のなさを感じました。もっと学びたいという意欲が高まりました。

- ・各職種の方の意見が伺えて良かったです。連携の必要性も再認識しました。
- ・最後の困難事例の解説のお話、非常に勉強になりました。ありがとうございました。
- ・グループワークを通してグループの方々と話をする機会があって良かった。
- ・多くのグループからエコマップや対応策など考え方や意見が聞けて良かった。
- ・様々な立場の方は、グループにいらっしゃったので、要支援者の周りにどのような機関があり、どのようなサポートがあるのか、より知ることができて良かったです。これからも、要支援者のための支援について、よく考え、その方の幸せの為に努力していきたいです。ありがとうございました。

※せっかくの他のグループの発表ですが、話が聞けても、模造紙の内容がよく見えなかったのが、残念でした。ビデオカメラで写して、スクリーンに映せるといいなと思いました。

## 2、「良かった」

- ・紙面に落とすことで分かりやすくなった。それぞれのエンパワメントに視点を置きたい。アセスメントと以降の確認を大事にしていく。
- ・自分の視点以外に気づくことができた。制度についても様々な角度から意見を聞くことができた。
- ・具体的に検討でき、勉強になった。個人的にももっと学習していこうと思った。
- ・いろいろな事業所の方と協力して行うことができた。
- ・演習など、こうやってみようという提案でも良いと思うが、それをできないと思うなど、現状で考えが固まってしまっている方が多く（自分も含め）それが、権利擁護支援を行う上で、良いなと思うので、常に柔軟な考え方を心がけていきたいと思いました。誰の支援をしているのかを常に頭に入れておきたいと思います。
- ・専門的な活動者のご意見も伺うことができて良かった。勉強になりました。ありがとうございました。
- ・配置後、間もない方もいたので「見立て」の説明を予めしても良かったと思う。グループワークではいろいろと話せて良かった。
- ・多事業所の人、多職種の人達と話し合いをすることで、考えること、見立て、支援の考え方の違いを感じることができて、とても良かった。このような場があると、つながりも増え、支援も豊かになるので、すごくいいことだと感じました。
- ・他の人の意見が聞けてとても良かった。
- ・いろいろな意見が聞けて良かった。本人たちの意向を大事に支援し、関係機関と協力していきたい。
- ・困難事例について難しかったが、グループの皆さんの意見が出て、とても参考になりました。
- ・他の機関の方の視点での見立てや意見をうかがえたことが参考になりました。

## 研修概要

1. 日 時 平成31年2月27日（木） 10:00～16:00
2. 会 場 前橋市総合福祉会館 第1・第2会議室
3. 参加者数 32人（市内22人、市外10人、県外0人）
4. プログラム
  - (1) 講義「権利擁護支援の基本」  
講師：佐藤 彰一さん  
(全国権利擁護支援ネットワーク代表・國學院大學法学部教授・弁護士)
  - (2) 講義「意思決定支援とエンパワメント」  
講師：佐藤 彰一さん
  - (3) グループワーク（権利擁護支援ケースの事例検討）  
権利擁護支援を軸にして  
事例解説とまとめ  
講師： 今井 友乃さん（NPO法人 知多地域成年後見センター事務局長・  
全国権利擁護支援ネットワーク事務局長）

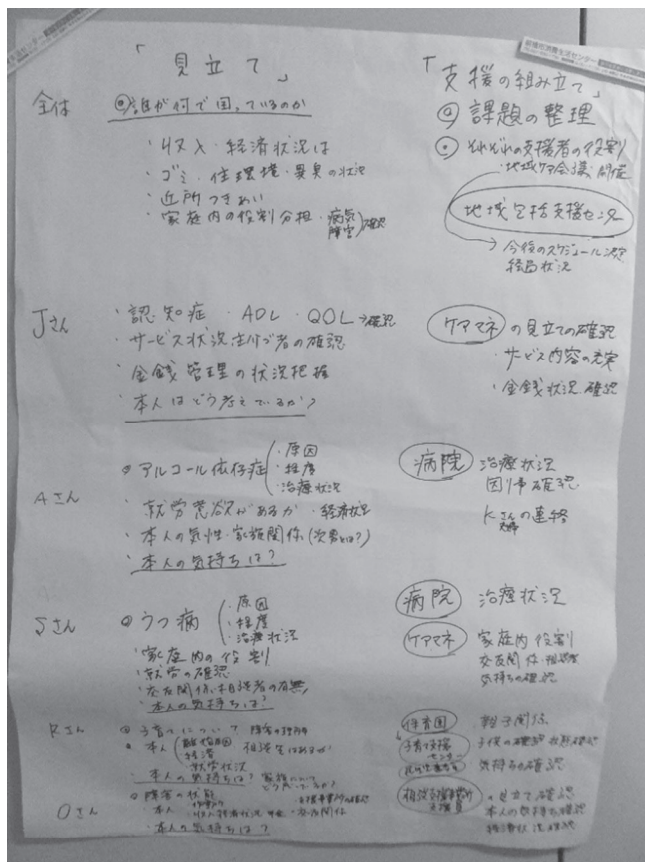
## 5. 報 告

研修会前半での講義では、権利擁護支援、意思決定支援の基本について学んだ。意思決定支援を行うにあたり、各々の局面で本人を取り巻くチームで協力し、本人が適切な判断ができるよう環境を整えていくこと、支援していくことの大切さを学んだ。

後半は4グループに分かれてグループワークを実施。提示された事例に対して、家族全体、家族各々の状況に対しての「見立て」とそれに対しての「支援の組み立て」について話し合い、グループ毎に発表し参加者全員で共有した。サービスの導入や制度利用、それぞれの役割分担等について意見が出たが、まずは、家族一人ひとりの思いを確認すること、そのために地域ケア会議等関係者が一同に集まれる場をもうけること等が挙げられた。

作成者 : 社会福祉法人 前橋市社会福祉協議会 高村 いくみさん







権利擁護支援従事者研修（2月27日・前橋市総合福祉会館第1・第2会議室）  
アンケート集計結果

回答数：21

1) (A) お住まいは

都道府県		市区町村			
群馬県	21名	前橋市	12名	渋川市	2名
	名	高崎市	3名	吉岡町	1名
	名	太田市	2名	無記入	1名

(B) 職種（所属） ※複数回答可

1、自治体	0名
2、社会福祉協議会	3名
3、福祉職（高齢）	9名
4、福祉職（障害）	1名
5、法律職	0名
6、AS-J会員団体	0名
7、その他	7名（生活支援員1、地域包括1、独立型後見・福祉相談事務所1）

2) 本研修は何でお知りになりましたか？ ※複数回答可

1、チラシ	11名
2、AS-Jホームページ	0名
3、関係機関	7名
4、友人・知人	1名
5、その他	3名（社会福祉士会1、社会福祉協議会1）

3) 「権利擁護支援の基本」・「意思決定支援とエンパワメント」について、ご意見・ご感想をお書きください。

1、大変良かった	8名
2、良かった	12名
3、よく分からなかった	0名

※無記入 1名

1、「大変良かった」

- ・非常に難しい問題だと思うが、今日の勉強会で「権利擁護」について理解できるようになりました。ありがとうございました。
- ・佐藤先生の講義、大変役に立ちました。意思決定の大切さといわゆる複雑なプロセスに

基づいて行われる意思決定支援の難しさを学習しました。

- 本人の意思決定を尊重する点に常に悩むところです。
- 講師の話が頭にすると入り、大変分かりやすい講義でした。なるほど、権利擁護と成年後見を一緒に考えてしまうから分からなくなってしまうんだと理解できました。
- 権利擁護＝成年後見と思っていましたが、日自をとっかかりにするのが理想と勉強になりました。
- 最後の流れや分類、考え方についてとても分かりやすく解説いただいた。ありがとうございました。

## 2、「良かった」

- 権利擁護についてイメージができた。
- もう少し具体的な例を色々お聞きしたかった。実際の権利擁護の介入時の様子と前と後の違い等も聞きたかった。
- ご講義ありがとうございました。基本的な事からよく分かりませんでした。何か正しいものがあるわけではなく、ただ権利擁護として何を指しているか説明できる状態にあることが大切だと本日のお話の中で捉えさせていただきました。ある人が自分のことを自身で伝えることができるが良いが、自分の思いや意見を伝えられない方の代弁という形で黒子や黒衣、後見のような当人を表現できる支援をしていると説明するのは私としては良いと思うが、どうでしょうか。
- 成年後見促進を掲げるのが目標ではなく、一人一人の権利擁護が目的であるという説明をお聞きし、改めて後見活動の中で意識して業務にあたろうと思いました。
- 中核機関の流れがよく分かった。

## 3、「よく分からなかった」、印なし

- 成年後見利用促進に対して否定的な発言をどう捉えるかで困った感が生じました。本研修の目的は…？自立支援事業を進めることが大きかったのでしょうか。本人の意思決定を大切にしながら、本人がメリットを感じられる成年後見制度を目指している者からは？？でした。

- 4)「グループワーク(権利擁護ケースの事例検討)」、「事例解説とまとめ」について、ご意見・ご感想をお書きください。

1、大変良かった	12名
2、良かった	6名
3、よく分からなかった	0名

※印なし 3名

- 1、「大変良かった」

- ・ケアマネが介入すると開けてびっくりな家庭はよくあるケースなので上手く関わってもらえるように相談機関に持って行くことが難しいと感じている。
- ・グループワークのフィードバックをありがとうございました。検討事例は誰にアプローチをどう行ったらよいかというよくありそうなケースでしたが、問題のある方の数が多く、また、キーパーソンになれそうな人もいなく、情報量の割に複雑さを感じる事例でした。それでもグループワークで話し合うことで、問題の糸をつかめることに改めて気づき、連携してアプローチし、働きかけることの実効性を活かしていけそうだと思います。
- ・専門職の方々なので活発な意見が出され、アプローチの仕方を頭に入れることができました。
- ・進行がよく分からなかったが、まとめの話がとても参考になりました。
- ・権利擁護が進んできたにも関わらず、実際にこのような生活をしている家庭もあるのだと改めて勉強させていただきました。問題が起きた時、誰がキーパーソンになるか、また一人一人の生活が潤っていけるような方法をとってやるのが一番だと思う。仕事をやるにおいてその人の話をしっかり聴くことが何より大切といつも心に留めております。
- ・多問題家族について学べ、とても有効なグループワークでした。
- ・各立場のそれぞれの立場、考え方の発表を聞けました。

## 2、「良かった」

- ・色々な考え方、視野の持ち方を学べて良かった。
- ・中核機関について決めるのは行政なのにNPOや団体が「うちがやりたい」と考える状況に？ 行政が委託をして丸投げする状況にも疑問を感じます。
- ・権利擁護及び意思決定支援とグループワークとのつながりをもう少し工夫すればさらに良くなったと思います。せめてだれか1人でも意思が書かれていれば、午前と午後がもっと有意義にリンクしたと思います。

## 研修概要

1. 日 時 平成31年3月11日（月） 10:00～16:00
2. 会 場 岩手県二戸地区合同庁舎 1階 大会議室
3. 参加者数 56人（二戸地域内（4市町村）30人、二戸地域外20人、県外6人）
4. プログラム

(1) 講義「権利擁護支援の基本と権利擁護支援ニーズへの気づきのポイント」

講師：上田 晴男さん

（PAS ネット理事長/いわき市権利擁護アドバイザー/  
中土佐町権利擁護支援システム推進委員会委員長）

(2) グループワーク（権利擁護支援ケースの事例検討）

講師： 今井 友乃さん（NPO法人 知多地域成年後見センター事務局長・  
全国権利擁護支援ネットワーク事務局長）

## 5. 報 告

全国権利擁護支援ネットワーク主催の本研修会は、岩手県内において初めて開催した研修会であった。開催地域はもとより、岩手県内や隣接する青森県などからの参加者も多く見られた。参加者の所属として、福祉分野を中心として、医療、行政など幅広い分野が一堂に会し権利擁護支援について講義やグループワークを実践できたことは非常に有意義であった。特にも、グループワークにおいては、多視点での意見交換ができたことは参加者の感想からも有意義であったことがうかがえた。

作成者： 特定非営利活動法人カシオペア権利擁護支援センター 所長 小野寺幸司さん



権利擁護支援従事者研修（3月11日・二戸地区合同庁舎）  
アンケート集計結果

回答数：44

1) (A) お住まいは

都道府県		市区町村			
岩手県	35名	二戸市	11名	奥州市	1名
		久慈市	6名	釜石市	1名
		一戸町	6名	大船渡市	1名
		盛岡市	4名	軽米町	1名
		一関市	2名	滝沢市	1名
青森県	9名	八戸市	7名		
		田子町	1名	無記入	2名

(B) 職種（所属） ※複数回答可

1、自治体	11名
2、社会福祉協議会	16名
3、福祉職（高齢）	10名
4、福祉職（障害）	4名
5、法律職	0名
6、AS-J会員団体	0名
7、その他	2名（民生児童委員協議会、病院各1）

2) 本研修は何でお知りになりましたか？ ※複数回答可

1、チラシ	10名
2、AS-Jホームページ	2名
3、関係機関	28名
4、友人・知人	1名
5、その他	3名

3) 「権利擁護支援の基本と権利擁護支援ニーズへの気づきのポイント」について、  
ご意見・ご感想をお書きください。

1、大変良かった	30名	※印なし 1名
2、良かった	13名	
3、よく分からなかった	0名	

## 1、「大変良かった」

- ・権利擁護について、分かりやすく説明を聞くことができた。頭ではわかっているけど、説明できる自信がなかった。
- ・この所、権利擁護の研修に参加させていただく機会が多く、いろいろな話を聞かせていただく機会が多くありますが、今日は、実務者の立場からの話の内容を聞かせて頂け楽しく聞けました。関わりの中で全体の問題を把握する事より、点としての問題を解決しがちな傾向があるので、今後の業務において気を付けていきたいと思いました。
- ・支援者は、いわゆる〇〇〇療法、△△△スキルというような手立てに頼りがち。人が人の生活を手伝うという当たり前の行為は、相手を心から認めることという「基本のキ」を学びました。子育てに似ているなど、もうとっくに終わってしまい後悔先に立たずの心境。祖父母が孫に対して持つ「寛容さ」が対人援助者にとって「肝」と腑に落ちました。貴重な学びを提供していただき、講師と主催者に感謝です。
- ・タイトルと講演内容が合致していたかは不明ですが、経験と知識がさすが豊富な方でしたので、要所、要所で話されるケース内容が興味深かったです。別枠でこれまで経験されたケースの情報提供もいただけたらと思いました。
- ・時間が短くて残念でした。分かりやすい説明で勉強になりました。権利擁護支援について勉強する機会が少ないので、とても良い機会になりました。
- ・時間が短かった。あと 30 分あればと思う。楽しい時間だった。
- ・意思決定支援が基本ということで、その中でも必要なものが「本人に分かるように伝えること」が大切であり、重要であることも分かりました。今後、支援に役立てていきたいです。
- ・権利擁護について、改めて学ぶことが出来ました。ケアマネの立場として、様々なケースで関わる機会が多くあるため、今後の業務に生かしていきたいと思っています。
- ・今、自分が関わり始めたケースと照らし合わせながら、考えさせられました。役割分担とスケジュールをしっかりと立てて、スピーディーな対応が出来るようにしたいです。自分らしいふうの生活を支援者の独りよがりにならず、一緒に考えていけるようにします。
- ・事例を交えての講義だったので、非常に興味深く聴講できた。
- ・日常的に専門支援特別支援を行っているが、支援の要素としては至ってシンプルで支援に行き詰った際には、適時、適正、適量で考えることがカギになると実感した。
- ・多職種連携として、権利擁護支援をしていけると利用者の生活支援の幅が広がると思いました。
- ・「権利擁護」はそもそも何なのかということについて学ぶことができた。支援者がどうしたいかではなく、本人がどうしたいかをきちんと聞けるよう意識していきたい。ネットワークが重めの病院からすると「会う」「現場に行く」という部分は辛いところではありますが、関係機関の皆さんに協力をもらいながらやっていきたいと思いました。



- ・本人の意思決定が成立してこそその支援がとても心に残りました。
- ・支援の3要素を忘れがち。再確認出来ました。
- ・支援者のセンスでアセスメントが変わってくるのことで、センスを養っていけるよう努力したいと思いました。
- ・利用者へ対する考え方について勉強になった。
- ・最近の意思決定の部分のお話を伺いたかったです。
- ・権利擁護支援の深さや可能性を感じ、考えることができました。事例をもとにお話しただいたので、分かりやすく聞きやすいご講義でした。ありがとうございました。

## 2、「良かった」

- ・権利擁護と支援について、ゆっくり丁寧に講義いただきました。自身の支援の振り返りができて良かったです。
- ・ポイント、ポイントが分かりやすくて良かった。基本をきちんと覚え把握できないと気付きへとつなぐことが出来ないと感じた。
- ・最初は何の話がしたいのかよくわからなかったのですが、後半、上田さんが今までに支援してきたケースのエピソードから支援の考え方や支援者のあり方について話していたのは大変参考になりました。
- ・支援の具体化～ニーズ評価と支援の組み立て～について、方法を知ることが出来たのが良かった。本人の意思をどのようにしたら確認出来るかという本質については、まだまだ勉強不足だった。専門員がやれる範囲は限定されており、何でもかんでも出来るわけではない。
- ・意思決定支援の講義も聞きたかったです。
- ・権利擁護支援や利用者ニーズの捉え方、支援者の意識すべきポイントについて再認識できた。
- ・考え方を増やすことが出来ました。
- ・パワポ資料にはない事例の話などが聞けて良かった。スーパーバイザーという役目もしている方なので、対応したケースでアドバイスしたらこうなったみたいなものも聞きたかった。
- ・現在の仕事では、直接相談支援をする場面が少ないのですが、福祉に携わっている者として、日々の業務に追われて忘れていたような視点、特に「本人の意思を尊重する」ことの大切さを改めて感じました。

4) 「グループワーク（権利擁護支援ケースの事例検討）」について、ご意見・ご感想をお書きください。

1、大変良かった	27名
2、良かった	14名
3、よく分からなかった	0名

※印なし 3名

1、「大変良かった」

- ・アセスメント→見立てのプロセスは自分一人では一面的になりがち。複数人の感覚が大事であることを学んだ。正解はないと思われるが、GWのトレーニングは何回も継続する必要性を感じた。
- ・事例解説があるのがとても良かったです。正解はひとつではないと思いますが、こういったやり方があるのだなと勉強になりますので。
- ・複数の機関が集まって、方向性が多様な可能性があるケースについて検討する機会はほとんどないので勉強になりました。
- ・違う職種の人たちでグループが構成されており、いろいろな方面から支援の仕方を検討できました。事例解説も分かりやすく、今後の参考になりました。
- ・それぞれの職種独自の見方で事例検討を行えて良かった。
- ・グループの仲間がとても良かった。色々な意見や取り組みなど、それぞれの立場の業務から話してもらいためになった。このように、同一地域にとどまらず、他地区の方々のグループワークは有意義である。事例解説も大変ためになった。学びの場になった。
- ・他機関が入ることで、色々な意見を聞くことが出来ました。とても勉強になりました。
- ・様々な職種が集まっていたため、その職種の考えや視点を学ぶことが出来ました。
- ・他市町村、他職種とのグループワークは楽しかったです。各方面からの働きかけのポイントも分かりやすかったです。
- ・本人、世帯を中心にした会議、置き去りにしない会議を改めて実施できる専門職でありたいと思う検討会でした。動きを具体化した支援を頑張ります。
- ・グループワークの時間も適切だった。事例解説が具体的で資料もあり大変良かった。
- ・多職種の方と話をし、また事例解説ということを知ることが出来、有意義な研修でした。
- ・いろんな職種の人が集まったので、意見が出てきて参考になった。今井氏のまとめで、意思の確認を求めようとする時に判断能力が障害されている人に対しては難しいと話をされ、とても共感した。本人のQOLが害されない程度に支援者が決めてしまっても良い場合もあるのではないかと思う。
- ・色々な職種の方々と意見交換ができて良かったです。参加出来て良かったです。
- ・いろいろな職種の方々と、意見を出し合い、いろいろな視点で見ることの大変さと大切さを感じました。
- ・様々な方と検討することにより、多角的に考えることができ参考になりました。

- ・他の職種の方と一緒にいき、視点の違いが参考になった。
- ・グループワークを通して、やはり話し合いを持つことで、解決への道筋が明確になると感じた。
- ・時間があつという間でした。事例をどう見立てるか支援を考えるかは職種によってもいろいろな意見があると思いました。
- ・支援を組み立てたうえで、誰がどうやってそこまでのプロセスを導くのか、GWの中で考えることの大切さに気付くことができました。メンバーの方が様々な引出しを持っている方々だったので、様々な状況に合わせたパターンを考えることが出来て良かったです。運営お疲れさまでした。

## 2、「良かった」

- ・グループワークを通じ、各地区から参加をしていたが、課題の解決の方向性が同じで安心しました。課題解決の共通認識のもとで活動していきたいと思いました。
- ・多職種の参加があり、いろいろな視点での意見交換ができた。現在と支援開始後のエコマップの比較により、支援の可視化が出来る。事例解説により、見落としに気づくことができスッキリした。
- ・色々な情報や意見がありとても参考になった。一つのケースだけでも色々な事業所の関わりがあり、初めて問題が解決できるのだと改めて感じた。
- ・事例検討より、今井さんがやってきた事や経験してきた実際の支援について、たくさん聞きたいです。
- ・他の職種の方の考え方が知れて良かった。事例検討について「事例検討は提示された情報のみで行う」ということが知れて良かった。
- ・様々な職業の方と話し合うことができ、為になりました。
- ・自分の視点と他所の視点、やはり話を聞くのは気づきになります。
- ・他参加者の視点が参考になった。また地域によって、サービスの使い方や人員体制が異なることも参考になった。
- ・自分では気づかない視点などで物事をとらえることができました。社会資源について良くわかっていない部分があることも気づかされました。
- ・必要な情報は何かを見極め、本人、家族が必要としている支援を一緒に行うにはどうしたらいいのかを考えていければと思いました。支援者として困難事例を作らないよう、本人および家族の方と一緒に歩いていけたらと思いました。
- ・見立て→組み立てるという所がむずかしかった。全体を見る視点を養う必要があると思いました。



## Ⅱ、検討委員会

## 1、委員会概要

### 【開催日時・場所】

	日時	開催場所
第1回	5月13日 15:00～17:00	自団体事務所 (千葉県船橋市)
第2回	7月29日 15:00～17:00	
第3回	11月11日 15:00～17:00	
第4回	1月13日 15:00～17:00	

### 【委員】

氏名	所属
佐藤 彰一	特定非営利活動法人 PAC ガーディアンズ (委員長)
竹内 俊一	特定非営利活動法人 岡山未成年後見支援センターえがお
田邊 寿	社会福祉法人 伊賀市社会福祉協議会
今井 友乃	特定非営利活動法人 知多地域成年後見センター
本田 隆光	特定非営利活動法人 そよ風ネットいわき
森高 清一	特定非営利活動法人 権利擁護支援センターふくおかネット
尾崎 史	特定非営利活動法人 あさがお
水戸 由子	一般社団法人 ジャスミン権利擁護センター
吉藤 則彦	社会福祉法人 燕市社会福祉協議会
山田 隆司	特定非営利活動法人 東濃成年後見センター
上田 晴男	特定非営利活動法人 PAS ネット

### 【事務局】

氏名	所属
立石 絢子	一般社団法人 全国権利擁護支援ネットワーク



## 2. 委員会報告

### 日本財団助成事業 「権利擁護支援従事者現任研修の開催」事業 検討委員会（第1回） 報告書

- ・開催日時： 2018年5月13日（日） 15時
- ・場所： 自団体事務所
- ・出席者： 佐藤委員、田邊委員、今井委員、森高委員、尾崎委員、  
水戸委員、本田委員、吉藤委員、山田委員 事務局（立石）

#### 1] 検討委員会日程について

今後の検討委員会の日程について確認された。

- 第2回 7月29日（日） 15時から 船橋事務所
- 第3回 11月11日（日） 15時から 船橋事務所
- 第4回 1月13日（日） 15時から 船橋事務所

#### 2] 事業内容の確認

##### 1、研修事業予定開催地

ブロック	日程	開催地	現地事務局団体（担当者）
北海道	11月2日	北見市？	津別町社会福祉協議会（山田さん）※決定
東北		二戸市	カシオペア権利擁護支援センター（関上さん）
関東		前橋市	前橋市社会福祉協議会（高村さん）
北信越		上越市	上越市社会福祉協議会
中部・東海			愛知県内
近畿		奈良市	奈良市社会福祉協議会（岡本さん）
中国・四国			中国地方（島根県？）
九州・沖縄			あんしん家族に打診中。薩摩川内市社協の可能性も

##### 研修開催地決定に向けて

- ・ 北海道のみ、現地事務局決定。津別社協にて現地事務局を受ける。会場は北見が現地の地理的にはいいらしい。後は現地に任せる。
- ・ 東北は、カシオペアに視察の際に、依頼したが検討中、返事待ち。
- ・ 北信越は、運営委員の情報による。今後話を詰める必要あり。
- ・ 近畿は、ななつぼし視察の際に、現地からの依頼の声、今後打合せする。

日本財団助成事業 「権利擁護支援従事者現任研修の開催」事業  
検討委員会（第2回） 報告書

- ・開催日時： 2018年 7月29日（日） 15時
- ・場所： 自団体事務所
- ・出席者： 佐藤委員、田邊委員、今井委員、森高委員、尾崎委員、水戸委員、  
本田委員、吉藤委員、上田委員 事務局（立石）

1、研修事業決定開催地

	日程	開催地	現地事務局団体（担当者）
1	9月17日	薩摩川内市	薩摩川内市社会福祉協議会（瀬戸口さん）
2	9月27日	柏崎市	柏崎市社会福祉協議会（大塚さん）
3	11月2日	北見市	津別町社会福祉協議会（山田さん）
4	11月30日	萩市	萩長門成年後見センター・萩長門成年後見支援センター （山口先生）
5	1月18日	浜松市	浜松成年後見センター（高木さん）
6	検討中	奈良市	奈良市社会福祉協議会（岡本さん）
7	検討中	前橋市	前橋市社会福祉協議会（高村さん）
8	検討中	盛岡市	成年後見センターもりおか

2、研修内容の検討

- ・講義講師： 佐藤彰一、上田晴男、熊田均
- ・ファシリテーター： 尾崎史、水戸由子、田邊寿、住田敦子、今井友乃

・講座形態

Aパターン

講義（①権利擁護支援の基本、②意思決定支援とエンパワメント）＋ワークショップ

Bパターン

講義（意思決定支援と成年後見制度利用促進の国の動向）＋ワークショップ

Cパターン

講義（成年後見利用促進法等の理解と意思決定支援）＋ワークショップ

- ・研修内容は現地事務局と協議し、現地の現状、ニーズに合ったものを行っていく。
- ・奈良は行政との協働開催を模索中、決定まで、時間がかかるようだ。
- ・前橋、浜松は今後現地に出向いて打ち合わせ予定。
- ・全国ネットとしても講師陣の開発が必要である。

日本財団助成事業 「権利擁護支援従事者現任研修の開催」 事業  
検討委員会（第3回） 報告書

- ・開催日時： 2018年 11月11日（日） 15時
- ・場所： 自団体事務所
- ・出席者： 佐藤委員、竹内委員、田邊委員、今井委員、森高委員、尾崎委員、  
水戸委員、本田委員、吉藤委員、山田委員 事務局（立石）

1、研修事業 参加人数

	日程	開催地	参加人数
1	9月17日	薩摩川内市	50名
2	9月27日	柏崎市	42名
3	11月2日	北見市	49名

2、今後の研修会開催日程

日程	開催地	現地事務局団体（担当者）
11月23日	萩市	萩長門成年後見センター・萩長門成年後見支援センター （山口先生）
1月9日	奈良市	奈良市社会福祉協議会（岡本さん）
1月18日	浜松市	浜松成年後見センター（高木さん）
2月27日	前橋市	前橋市社会福祉協議会（高村さん）
未定	二戸市	カシオペア権利擁護支援センター

3、前回からの変更点

- ・萩市での開催日：11月30日（金） → 11月23日（金・祝）
- ・東北ブロックでの現地事務局と開催地：  
成年後見センターもりおか → カシオペア権利擁護支援センター  
盛岡市 → 二戸市

4、その他

- ・8月にもりおかに、研修開催の依頼に出向いたが、今年度は10周年で忙しいので、来年開催が好ましいと言われ、カシオペア（二戸）での開催に変更した。
- ・萩に打ち合わせに行き、講師に初登場の住田敦子さんをお願いすることになった。
- ・今回から、研修の際に、パワーポイントの資料を配布しないやり方を取り入れたが受講生がしっかり話を聞いているようにみえる。このやり方もいいかもしれない。

日本財団助成事業 「権利擁護支援従事者現任研修の開催」事業  
検討委員会（第4回） 報告書

- ・開催日時： 2019年 1月13日（日） 15時
- ・場所： 自団体事務所
- ・出席者： 佐藤委員、田邊委員、今井委員、森高委員、尾崎委員、水戸委員、  
本田委員、吉藤委員、山田委員 事務局（立石）

1、研修事業参加人数

	日程	開催地	参加人数
1	9月17日	薩摩川内市	50名
2	9月27日	柏崎市	42名
3	11月2日	北見市	49名
4	11月23日	萩市	38名
5	1月9日	奈良市	81名

2、今後の研修会開催日程

日程	開催地	現地事務局団体（担当者）
1月18日	浜松市	浜松成年後見センター（高木さん）
2月27日	前橋市	前橋市社会福祉協議会（高村さん）
3月11日	二戸市	カシオペア権利擁護支援センター

3、次年度に向けて

委員より、各ブロックの候補地および現地事務局候補の団体の意見聴取。

- ・北海道は、函館、旭川で開催を希望している。現地とのすり合わせが必要である。
- ・東北は、今年度できなかった、もりおかが希望しているので、二戸の研修の時に打ち合わせをする予定である。
- ・関東は、検討の余地がある。鶴ヶ島社協での開催もあり得る。
- ・北信越は、新潟県での開催が続いたので、飯田社協にでも問い合わせてみる。
- ・中部・東海は、愛知県での開催を検討する。愛知県全体が集まれる場所を検討するのもいいことである。
- ・近畿は、以前もだまさんが、代表の佐藤先生に講師として来てほしいようなので研修開催を提案してみる。
- ・九州・四国は、たけたねっとが、希望しているようである。確認してみる。

全日程を終えての振り返り

1、各地の参加人数まとめ

	日程	開催地	参加人数
1	9月17日	薩摩川内市	50名
2	9月27日	柏崎市	42名
3	11月2日	北見市	49名
4	11月23日	萩市	38名
5	1月9日	奈良市	81名
6	1月18日	浜松市	44名
7	2月27日	前橋市	32名
8	3月11日	二戸市	56名

2、各地の振り返り

<薩摩川内市>

この社協は、少ない職員で法人後見を行っており、市民後見人さんの活用や、チームで支援する事の大切さ、仕組みが重要だと実感していたようである。

<柏崎市>

対人支援者が、常に抱える悩み、これでいいのか？もっと他にやり方があるのではないか？といった思いは当然であり自然であるとわかった。気持ちが軽くなると、ともに支援の難しさを感じた。と意見があった。

<北見市>

普段は考えない「意思決定支援」について、話が聞けて良かったという意見が多かった。まだ、制度の周知が行き届いていない気がした。日本は広い。

<萩市>

本人の意思決定支援をしていくうえで、代行決定は権利侵害になるということを改めて気づき、プロセスを丁寧に支援する必要性に気づきがあったようである。

<奈良市>

意思決定支援と代行決定の違いの中で、代行決定を選ばざる得ないのは、支援者に能力がないという考え方が、支援者がいつも気になっていたところをはっきりしてくれたという意見があった。

<浜松>

意思決定に関しては、支援者の都合、支援のしやすさで、選んではいけないという大切に当たり前のことが伝わったようである。

<前橋>

成年後見利用促進について、否定的な発言に、疑問を残してしまったようだ。迷いの中、それでも、成年後見制度を利用している意図を伝える必要があった。

<二戸>

多職種連携として、権利擁護支援をしていけると。利用者の生活支援の幅が広がると思うという意見があった。連携の重要性が伝わっていると感じた。

### 3、今後に向けて～この研修を通して～

国連の権利条約に批准した国として、今のままの成年後見制度の利用促進を図るということは、権利侵害を勧めるに近いことになる。そのために、この制度は最終手段だということを理解して使う必要がある。アンケート等を通してそのような意見がわかる。

- ・成年後見制度利用促進は、権利擁護支援の地域連携ネットワークの構築が目標だとわかった。
- ・本人が考えられるように環境を整えることが大切。
- ・あくまでも、主役は本人である。支援者側から考えない。
- ・権利擁護についてわかりやすく話が聞けて良かったという意見が多い。普段は考える機会がないように思える。支援するには大切なことである。考える機会を提供できてよかった。

グループワークでは、総じて良かったことの要素に他人の話を聞いて良かったというのがある。支援に迷いや、難しさがあるなか、色々な人の意見に耳を傾けることは大切である。受講生自身が感じている。色々な立場の人の意見は大切である。丁寧なグループワークは必要である。

検討会の中から、研修後の地域の変化の声が拾えた。

- ・研修後、多職種での会議が、増えた。
- ・研修を上司が受講すれば、部下の支援者の支援行動への理解がすすむ。
- ・以前は、集まる自体、無理だと思っていたが、可能性があるかもと意識が変化した。
- ・研修をきっかけに、新たなネットワークができた。
- ・障害者支援者と高齢者支援者が、連携できるようになった。
- ・意識が積み重なることに、継続して研修を受けることのメリットを感じる。
- ・法律職と福祉職と一緒に学ぶ場ができてネットワークが構築される。
- ・研修で顔を見た関係者だから、ネットワークが広げやすい。
- ・外からの投げかけから、閉塞感がありがちな地元が繋がるきっかけになる。
- ・地域の多職種が同じ場で、権利擁護支援の話を聞くのがいいと思える。
- ・同じ事例を複数の人で議論することで、ファシリテーションの大切さがわかる。



(資料) 研修配布資料

1、 9月17日 鹿児島県薩摩川内市

## 全国権利擁護支援ネットワーク権利擁護支援従事者養成研修

### 権利擁護支援の基本と意思決定支援

2018年9月17日(月)

於：薩摩川内市総合福祉会館大ホール  
全国権利擁護支援ネットワーク代表  
国学院大学教授・弁護士  
佐藤 彰一



1

## 今日のお話

- 1 権利擁護支援のことは  
アドボカシーの要素  
正義とケア(幸福のマーゴ)
- 2 意思決定支援をめぐる日本の議論  
能力存在推定  
意思決定支援と代行決定
- 3 基本計画の行方  
実践交流会から  
松江の事件を考える

2

## 権利擁護(言葉の整理)25p

- ・「権利擁護」は福祉の言葉です  
英語では Protection and Advocacy  
中国語・韓国語では、權益擁護？  
法令上は？(権利と利益の擁護、権利擁護など・19法令)
- ・いろいろな使われ方があります。  
対象：子供、女性、LGBT、患者、ホームレス、外国人  
生活困窮者、高齢者・障害者、etc  
私の定義(広いです)「なんらかの事情により、自分の思いや意見を他者に伝えることができず、社会的に不利益を受けている人(もっと広い人はものやこと)の代弁」  
権利に特化した代弁定義は、日本独特？  
タイプ：  
Personal or Case (by prof, staff, carer, family, friend),  
System, Self

3

## アドボカシー(権利擁護)の要素 28p

人間としての尊厳を確保し、それぞれの良き生を支援する

- 1 自己決定の尊重
- 2 ご本人にとって最善の利益の確保
- 3 社会的承認・参加 (連帯性・エンパワメント・外向き・内向き)  
1と2は原則一致(自己選択が本人にとって最善)。しかし、支援者からみると違う場合。パターナリズム的介入？  
主観的最善利益(ご本人が言うご本人の利益)  
Vs 観察者的最善利益(支援者がご本人の思いと位置づけるご本人の利益)  
Vs 第三者的最善利益(支援者が思うご本人の利益)  
どれが「正しい」などは、言えない  
しかし、「なにをされているか」は言える

4

## 正義とケアの共存は可能か



例えば

自分が認知症になって判断能力がなくなつた時には、安楽死をさせてほしいと明確に述べている方が、認知症になってでたらめだけと、それなりの生活をしているときにどう判断するか。  
ドゥオーキーンによる幸福のマーゴの扱い。

まわりのいろんなことが、ケアと正義に関わってくる。

正義の倫理	ケアの倫理
世界の中心に自己	世界の中の自己
公正・公平・不偏の実現	他者とのつながりの形成・維持
自立	相互依存・支え合う
理性	感情
公平に扱う、分け隔てしない	気づかう、思いやる
権利・義務	責任・応答 (responsibility)
ルール、原理に基づく判断	具体的状況の中での判断
普遍的(一般的)	個別的(特殊的)
対象からの距離	没頭、専心
(短所)拘子定規、融通が利かない	(短所)場当たり的、えこひいき

## 意思決定支援論の整理① 31p

◆「この人は判断能力が不十分であるので、できる限り本人の意思は尊重するが、判断能力が不十分なため、周囲のことは勿論自分のことについても適切な判断をすることができない。その結果、社会生活や日常生活で困難な状況になる。だから福祉関係者らが関わって、その人のことについて判断しなければならぬ」

能力不存在推定

7

## 意思決定支援論の整理②

◆「どんなに重い認知症の人であっても、その人なりの人を生きてきた経緯があり、その人なりの思い、そして判断がありうる。適切な判断が自分ではできないと周囲から見られていた人々も、支援さえ受ければ、その人なりの決定ができる」



能力存在推定(パラダイム転換)

8

## パラダイム転換と代行決定

31pー32p

1. 意思決定支援が問題になる局面は、ご本人にとつて重要で、加えて、まわりにも影響を与える問題についてでの決定
2. ある人にそのことについて適切に決定する能力と意思があるかないかは、他人には明確に断定できない。
3. 他人(支援者)にできることは、「ある」か「ない」か、いずれかを「推測」しているだけである。
4. これまで、「ない」と「推測」することが多かった(能力不存在推定)
5. これからは「ある」と推測する方向へ変わった(能力存在推定)

9

## パラダイム転換と代行決定

6. しかし、「ある」としても、その真意を確認する能力が支援者側になければ、結局、それに従えないし、支援もできない。
7. つまり、意思決定支援ができない場合は、支援者側には本人の意思を確認できない場合であり(あるいは、本人の決定を妨げている環境の改善ができない場合)、それは本人の能力とは関係がない。支援者側の能力の問題である。
8. だから代行決定をする支援者は、自己に意思決定支援の能力がないことを自ら確認し、同時に、そのことを他の人に説明できないといけません。
9. 要するに、代行決定は、本人に能力がないから行う者ではない。支援者に能力がないから行うものである。

10

### 成年後見制度利用促進に関する経緯

#### 成年後見制度の利用の促進に関する法律(平成28年5月施行)

- 以下の事項等を規定することにより、成年後見制度の利用促進に関する施策を総合かつ計画的に推進
- 成年後見制度利用促進の基本理念、国等の責務
  - 基本方針その他基本となる事項
  - 成年後見制度利用促進基本計画の策定
  - 「成年後見制度利用促進委員会」(総理大臣及び関係大臣)及び「成年後見制度利用促進委員会」(有識者)の設置(事務局は内閣府)

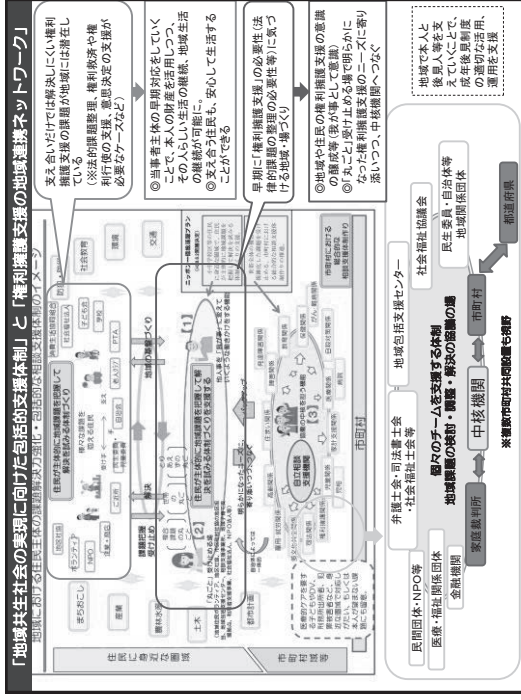
#### 成年後見制度利用促進基本計画(平成29年3月24日閣議決定)

##### H30.4.1:厚労省への事務引継ぎ (成年後見制度利用促進法附則第9条の施行)

新たな「成年後見制度利用促進会議(法務・厚労・総務大臣)」及び「成年後見制度利用促進専門家会議(有識者)」を設置

##### 引き継ぎ内閣府で担当

成年被後見人等の権利の制限に係る措置の適正化等を図るための関係法律の整備に関する法律案(平成30年3月13日閣議決定・国会提出)  
※国家公務員法など各省庁における188の法律の「総対的次條案項」を再直し







地域連携ネットワークの基本的仕組み  
「チーム」「協議会」「中核機関」

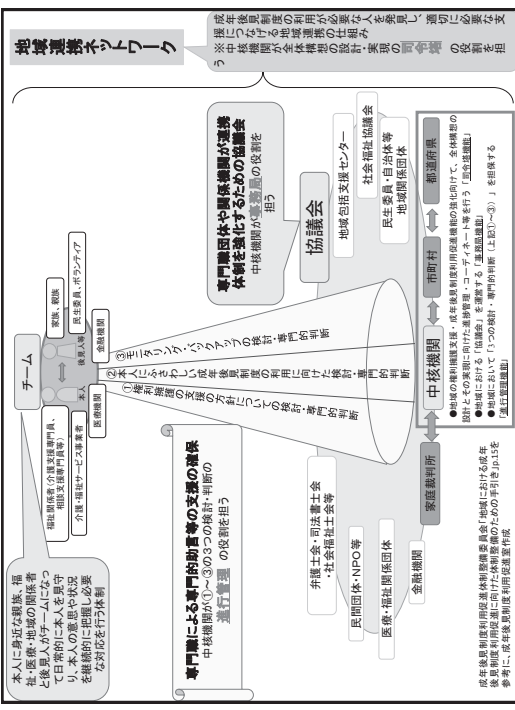
- ① **本人を後見人とともに支える「チーム」による対応**  
本人に身近な親族・福祉・医療・地域の関係者、後見人が「チーム」としてかわる体制づくり  
⇒ 支援の必要な人を迅速に。本人と社会との関係性を修復・回復。  
本人の意思や状況をできる限り継続的に把握し、孤立を防止。
- ② **地域における「協議会」等の体制づくり**  
法律・福祉の専門職団体や関係機関が「チーム」を支援  
⇒ 個別の協力活動(専門相談への対応等)  
ケース会議の開催  
多職種間での更なる連携強化策など、地域課題の検討・調整・解決  
家庭裁判所との情報交換・調整等
- ③ **地域連携ネットワークの中核となる機関(「中核機関」)の設置**  
権利擁護支援の中核機関を設置  
⇒ 様々なケースに対応できる法律・福祉等の専門知識や、地域の専門職等から円滑に協力を得るノウハウを蓄積。  
【協議会の事務局など、地域の連携の要。家庭裁判所との窓口役】  
⇒ 市町村の責任で設置(直営又は委託)

地域連携ネットワーク及び中核機関が担うべき具体的機能  
(基本計画p.11～p.15)

- ① **広報機能**
- ② **相談機能**
- ③ **成年後見制度利用促進機能**  
(a)受任者調整(マッチング)等の支援  
(b)担い手の育成・活動の促進  
(市民後見人や法人後見の担い手などの育成・支援)
- (c)日常生活自立支援事業等関連制度からのスムーズな移行
- ④ **後見人支援機能**
- ⑤ **不正防止効果**

「優先して整備すべき機能等」(基本計画p.18)

- **まずは、①広報機能や②相談機能の充実を。**  
⇒ 成年後見制度の利用の必要性の高い人を地域で発見し、適切にその利用につなげる機能が優先。  
⇒ 保佐・補助の活用を含め、早期の段階から、本人に身近な地域において相談ができるよう、特に②相談機能の整備の優先。
- **③成年後見制度利用促進機能と④後見人支援機能：**  
⇒ まずは、各種専門職の参加を得るために必要な協議会等を早期に設置。  
⇒ 各地域における関係者の具体的な役割分担と連携体制の整備を。
- 各地域における地域ケア会議、障害者総合支援法に基づく協議会、地域福祉計画に基づく各種機関・協議会等、地域福祉や地域包括ケア等の既存の資源・仕組みを活用。
- 成年後見制度を利用している、支援の必要な高齢者・障害者、後見人の相談対応等も重要。



## 「利用促進」とは？①

○推進し、達成されるべきこと:

判断能力の問題により、自分らしい生活を送るうえで大切なことを決め、主張し・実現できない高齢者・障害者の「権利擁護」と「意思決定支援」

※ 成年後見制度(法定後見、任意後見)は、そのための選択肢・手段

(促進法第1条) この法律は、認知症、知的障害その他の精神上の障害があることにより財産の管理又は日常生活等に支障がある者を社会全体で支え合うことが、高齢社会における喫緊の課題であり、かつ、共生社会の実現に資すること及び成年後見制度がこれらの者を支える重要な手段であるにもかかわらず十分に利用されていないこと鑑み、成年後見制度の利用の促進について、その基本理念を定め、国の責務等を明らかにし、及び基本方針その他の基本となる事項を定めるとともに、成年後見制度利用促進会議及び成年後見制度利用促進委員会を設置すること等により、成年後見制度の利用の促進に関する施策を総合的かつ計画的に推進することを目的とする。

## 「利用促進」とは？②

○重視していただきたい視点:

- ・「権利擁護」の光が届かないケースへの対応強化を図るには？
- ・成年後見制度を「利用すべき人が利用できる」ため、また「利用者がメリットを実感できる」ため、地域福祉と自治体がなすべきことは？

○権利擁護支援の「地域連携ネットワーク」が目指すもの:

- ・ 発見⇒相談(早期対応から専門相談までのつなぎ)  
⇒ニーズの精査  
⇒必要な人に必要な支援(見守りであったり、法定後見であったり)が行き届くような地域づくり
- ・ 全国どこに住んでいても、契約取消・代理といった保護が求められる人には、成年後見制度が利用できること  
(「基本計画」の「施策目標」に明示)

## 成年後見人は意思決定支援者か 144p

・ 行方役割は、代行決定  
ただし法的効果を出すことができる権限あり  
要するに法律上の事柄についての決定権が基本

・ その権限を使わないで意思決定支援することもできる

民法858条 必要職務か？ この条文の意思は広い

(成年被後見人の意思の尊重及び身上の配慮)

成年後見人は、成年被後見人の生活、療養看護及び財産の管理に関する事務を行うに当たっては、成年被後見人の意思を尊重し、かつ、その心身の状態及び生活の状況に配慮しなければならない。

・ 意思決定支援は、いろんな人が関わる＋支援の場も様々



黒子 黒衣



### 三つの問題 149p

- 法は、人を能力や意思のある人だとみているのか、ない人だとみているのか。支援者が困惑する。
- 代行決定をすれば良いのか、意思決定支援をすれば良いのか、すべて裁量。すべての人に意思決定支援を保障できない。
- 意思決定支援に名を借りた代行決定。

25

### 厚生労働省の意思決定支援ガイドライン

- 2015年策定 障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドライン
- 成年後見ではなくて、福祉サービス事業者を念頭にしたガイドライン。
- 事業所ごとに意思決定支援計画と責任者を置く。
- 基本的な考え方はMCA2005を踏襲 156p  
代行決定と自己決定支援の区別があいまい。

26

### 最近のガイドライン

- 「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」の改訂について(2018)
- <http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000197665.html>
- 認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン(案)に関する意見募集について
- <http://search.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSDETAIL&iid=495180007&Mode=0>
- 後見人等のための意思決定支援ガイドライン(大阪意思決定支援研究会)
- [http://www.osakaben.or.jp/info/2018/2018\\_0510.php](http://www.osakaben.or.jp/info/2018/2018_0510.php)

### 意思決定支援を受ける「権利」? 159p

- 意思決定支援を要求して訴訟を起こせるか? 官民の法律 160pの例
- 施設は契約(市民) 訴訟を起こせるか?
- 契約内容の一部になっているか?
- 後見人 民法858条(意思尊重義務)  
平成29年1月16日松江地裁判決  
賃金と社会保険1707号30頁以下  
任務懈怠の後見人損害賠償を命じる判決  
意思決定支援という言葉こそ使っていないが。

28

- ・平成13(2001)年9月5日成年後見開始の審判  
同時に被告選任(司法書士)
- ・平成26(2014)年2月10日辞任許可 後任は別の司法書士
- ・(争点1)一度も本人と面談しなかった(状況把握) 裁量
- ・(争点2)家裁への報告が遅れる。義務違反 しかし損害なし
- ・(争点3)胃ろう造設後の食事契約(月額約4万) 義務違反  
229万4874円
- ・(争点4)生命保険契約の締結 裁量
- ・(争点5)車椅子のレンタル(体に合わない・補装具費支給制度)  
70万8000円
- ・(争点6)引き継ぎの遅れ 義務違反 損害なし
- ・(争点7)障害者年金の申請を取らなかった  
財産管理として不適切  
776万5017円

合計1076万7891円の支払いを命じる

- ・皆さんは、どう考えますか？
- ・一般的見守り義務はあるのか、ないのか
- ・定期的に見守るべきか(例えば一月に1回)
- ・チームで判断？ アセスメントシートと報酬？
- ・「日本の成年後見制度の現状と課題」  
賞金と社会保障2016年7月上旬号pp42-61
- ・「意思決定支援は可能か」法哲学年報2016(2017) pp57-71
- ・日本福祉大学権利擁護研究センターほか編「権利擁護が分かる意思決定支援」  
ミネルヴァ書房(2018)
- ・「成年後見人の見守り義務などについて」賞金と社会保障1713号(2018年9月上旬号)pp19-34(松江事件の評釈)



恐るべきことである。最近出版された一冊の本——「痴呆症にかかった人の介護のために、『一日三六時間 (36 Hours)』を提供している全ての人に」献じられた——は、これらの患者の何人かの人生をぞとずるほど詳細に、最後の動けなくなった段階のみならず、それに至る過程にそとて描いている。

「しばしばメアリー (Mary) は不安になり、名状しがたい恐れをいだいた。(中略) 人々が現れ記憶が戻ってきて、やがて去っていくのであった。彼女は何が現実の出来事であり、何が過去の記憶なのかを語ることが出来なかった。(中略) 彼女のからだにつながれているチューブは神秘的であった。くる日もくる日も、彼女はどのようにして水を飲むのかを思い出すが出来なかった。時には水は全部流れ去ってしまい、時には満水になったりしても、彼女はそれを止めることができなかったのである。(中略) メアリーは、家族が訪ねてくるときは嬉しかった。時には彼女は彼らの名前を思い出したが、それ以上にしばしば忘れるのであった。(中略) 彼らが彼女を抱きしめて愛撫するとき、彼女はそれが最高に好きだった」。

「ミス・ラミレス (Miss Rahires) が彼女の姉に何度も何度も、今日は医者に行く日だと言つても、姉は、近所の人に二人がかりでひきづられて泣き叫びながら車におしこまれるまでは、車に乗ろうとはしなかった。医者にいく間中、彼女は助けを求めて泣き叫び、医者に到達するや否や彼女は走つて逃げようとするのであった」。

「ルウイス氏 (Mr. Lewis) は靴紐を結ぼうとした時突然泣き出した。彼は靴をくずかごに投げ入れ、バスルームに閉じこもつてむせび泣くのであった」。

#### ◆ マーゴは何者か？

アンドリュー・ファールリック (Andrew Fairlie) は医学生であった時に、彼がマーゴ (Margo) と呼んだ五四歳のアルツハイマー症の患者に出会つて、彼女のアパートを毎日訪ね始めた。彼女はそこで付き添い人の介護を受けていたが、アパートにはたくさんの鍵がかけられており、彼女が寝間着のまま夜中に部屋から抜け出して公園を彷徨しないよ

うにしてあつた——彼女は、以前そのようなことをしていたのであつた。マーゴはファールリックが到着するたびに彼が誰であるかは知っていると言つたが、決して彼の名前を言わなかつた——彼はそれは単なる親切心からなのだろうと思つていた。彼女はミステリー小説を読んでいると言つたが、ファールリックは、「彼女の読んでいるところが毎日思いつくまゝにとんでいくことに気づいた。あるときは、本が数十ページ分折られていたことがあつたのである (中略)——「おそらく彼女は、イスに座つたまま、鼻歌を歌いながら前後にゆくりイスをゆきふり、気ままに居眠りをし、ときどき本の新しいページをめくることが快感だつたのだ」と述べている。マーゴはアルツハイマー症患者のための美術クラスに出席していた——患者達は彼女も含めて皆、最後の死の直前を除くといつてもほとんど同じ絵を描いていたが、死の直前にはより幼稚な絵になるのであつた。ファールリックは、「マーゴは彼女の病気にもかかわらず、おそらくある程度はそれ故に、私がそれまで知つていた人々の中でも最も幸せな人の一人であることは否定しがたい」という事実に混乱したと述べている。彼の報告によると、彼女は特にヒトナツ・バターとゼリー・サンドウィッチを食べるのを楽しみだつた。しかし彼は、「古い記憶が急速に薄れる一方で新しい記憶を蓄積できない場合に、いったいその人には何が残るのだろうか？ マーゴは一体何者なのであろうか？」と問うているのである」。

#### ◆ 痴呆症の患者の現在の人格と過去 (あるいは未来) の人格

今や私が以前に述べた発言を繰り返す必要がある——我々は當時痴呆であつた人の権利と利益ではなく、過去に能力があつたにもかかわらず現在痴呆となっている人の権利と利益を検討しようとしているのである。従つて我々は、その人の権利と利益を検討する際に二つの異なつた方法で考えることになるであらう——我々が痴呆患者の現在の状況と能力に注目する場合には、その人が痴呆状態にある (demented) 人として考えるのであり、我々が痴呆患者の全体の人生の過程に注目する場合には、その人が痴呆状態になつた (has become) 人として考えるのである。例えば「現在能力を持っている人の自律性に関する権利というものには、後日痴呆状態になつた場合には、たとえ自らが延命治療を懸